

もくじ	1
はじめに	4
本書の読みかた	6
1 章 パソコンの準備	9
1 同梱品の確認	10
2 各部の名称と機能	11
1 本体正面	11
2 本体背面	14
3 本体底面	16
4 マウス	16
3 接続について	17
1 接続完成図	17
2 台座またはゴム足の取り付け	18
3 ディスプレイ（別売り）の接続	19
4 マウスの接続	23
5 キーボードの接続	23
6 電源への接続	24
4 初めて電源を入れるときは	25
1 電源を入れる	25
2 Windows 2000 のセットアップ	26
3 Windows 98 のセットアップ	34
4 ユーザ登録をする	39
2 章 電源の入れかたと切りかた	41
1 電源の入れかた	42
2 電源の切りかた	43
1 Windows 2000 の場合	43
2 Windows 98 の場合	43
3 省電力機能について	44
1 省電力機能について	44
2 省電力モードについて	45
3 省電力モードへの移行（Windows 2000）	46
4 省電力モードへの移行（Windows 98）	48
5 省電力モードからの復帰	49

3章	ハードウェアについて	51
1	キーボード	52
2	CD-ROMドライブ／CD-R/RWドライブ	54
3	PCカード	61
4	フロッピーディスクドライブ	64
5	機器の拡張を行うときは	66
6	本体カバーの取りはずし／取り付け	68
7	オプションカード	71
8	増設メモリ	77
4章	パソコンの取り扱い	83
1	日常の取り扱いについて	84
2	内蔵バッテリーの交換	89
5章	リカバリCD／カスタム・リカバリCDの使いかた	93
1	リカバリCD／カスタム・リカバリCDとは	94
1	リカバリCDとは（Windows 2000モデル）	94
2	カスタム・リカバリCDとは（Windows 98モデル）	94
2	標準システムを復元する	95
1	準備	95
2	操作手順	95
3	最小構成でシステムを復元する（Windows 98モデル）	101
1	準備	101
2	操作手順	101
4	アプリケーションを再インストールする（Windows 98モデル）	104
1	操作手順	104
6章	困ったときは	105
1	困ったときのQ&A	106

7章	BIOS セットアップについて	115
1	BIOS セットアップとは	116
	1 BIOS セットアップの起動方法	116
	2 BIOS セットアップの操作方法	117
	3 BIOS セットアップの内容	119
2	工場出荷時の設定値	120
3	Main メニューの詳細	122
4	Advanced メニューの詳細	124
5	Security メニューの詳細	135
6	Exit メニューの詳細	137
	付録	139
1	製品仕様	140
2	各インタフェース	144
3	エラーメッセージ	150
4	技術基準適合について	152
5	トラブルチェックシート	153

はじめに

このたびは、本製品をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。

本書は本製品の基本的な取り扱い方を説明しています。

本製品はご購入のモデルにより、システム（OS）が異なります。ご購入のモデルに対応した部分をお読みください。

本製品を安心してお使いいただくために重要な事項が添付の冊子『安心してお使いいただくために』に記載されています。よくお読みください。

● 記載について

- ・ 本書に記載している画面は、表示例です。実際に表示される画面と異なる場合があります。

● Trademarks

- ・ Intel、Celeron、LANDesk は Intel Corporation の商標または登録商標です。
- ・ PS/2 は米国 International Business Machines Corporation の商標または登録商標です。
- ・ Microsoft、MS-DOS、Windows、Bookshelf は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- ・ Ethernet、Fast Ethernet は富士ゼロックス社の商標または登録商標です。
- ・ Roxio、Roxio のロゴ、Easy CD Creator、DirectCD は Roxio.inc の商標です。

取扱説明書に掲載の商品の名称は、それぞれ各社が商標または登録商標として使用している場合があります。

● 著作権について

音楽、映像、コンピュータ・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作者及び著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的にまたは家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製（データ形式の変換を含む）、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをなされる場合には、著作権法を遵守のうえ、適切にご使用を心がけていただきますよう、お願いいたします。

● お願い

- 記憶装置（ハードディスク、フロッピーディスク）や、CD-R、CD-RWに記憶された内容は故障や障害の原因にかかわらず保証いたしかねます。
- 購入時に決められた条件以外での、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。お取り扱いにはご注意願います。
- 本製品でサポートしているシステム（OS）は次のとおりです。
 - ・ Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system 日本語版
 - ・ Microsoft® Windows® 98 SECOND EDITION operating system 日本語版上記以外のシステム（OS）は動作の保証を行っておりません。

お使いになる前に本体同梱の東芝パソコンお客さま登録カードに必要事項をご記入のうえ、返送してください。

保証書は記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

● 参照マニュアル

- 本装置で使用するオペレーティングシステム（OS）の説明については、各システムに付属の『ファーストステップガイド』または『クイックスタートガイド』または『Windows のヘルプ』をご覧ください。
- Intel LANDesk Client Manager の説明については、次の方法をご覧ください。
 - Windows 2000 モデル : アプリケーション CD-ROM をセットし、表示された画面から「LANDesk Client Manager の readme を開く」をクリックする
 - Windows 98 モデル : Intel LANDesk Client Manager CD-ROM 内の「Readme.doc」を開く
- ご購入のモデルによって、次のアプリケーションをご用意しています。
 - ・ Microsoft® Office XP Personal
 - ・ Easy CD Creator
 - ・ DirectCDそれぞれの説明については、それぞれの『アプリケーションソフトに付属の説明書』をご覧ください。

本書の読みかた

記号の意味

 **警告** ・誤った取り扱いをすると、人が死亡する、または重傷を負う可能性があることを示しています。

 **注意** ・誤った取り扱いをすると、人が傷害*1を負う可能性、または、物的損害*2のみが発生する可能性があることを示しています。

- *1：傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さない、けが・やけど・感電などをさす。
- *2：物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットに関わる拡大損害をさす。



お願い

・データの消失や、故障、性能低下を起こさないために守ってほしいこと、仕様や機能に関して知っておいてほしいことです。



メモ

・知っておくと便利なことを説明しています。

 参照先を示しています。

本書内の参照先は「」で示し、他の説明書の参照先は『』で示しています。

(注) 補足説明をしています。

画面の表しかた

画面の全部、または一部を表します。

【例】

Total = XXXX KB

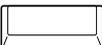
このように画面上または本文中の文字を X で表している場合は、実際にはさまざまな数字や記号が入ります。

入力するキーの表現

操作で入力するキーを本文中で表すときには、説明に必要な部分だけを□で囲んで示しています。

Y キーを押す  を押してください。

I キーを押す  を押してください。

Space キーを押す  を押してください。

● 操作の表しかた

操作や作業は、次のように示します。

【例】

操作が1つで済む場合は、次のように示します。

Y キーを押す

キーを「+」でつないで書いてあるときは、前のキーを押したまま離さずに次のキーを押してください。

Ctrl + **Alt** + **Delete** キーを押す

Ctrl キーと **Alt** キーを押したまま **Delete** キーを押します。

● 用語について

本書では、次の用語について定義します。

- システム 特に説明がない場合は、ご使用になるオペレーティングシステム (OS) を示します。
- Windows 2000 Microsoft® Windows®2000 Professional operating system 日本語版を示します。
- Windows 98 Microsoft® Windows®98 SECOND EDITION operating system 日本語版を示します。
- Windows Windows 2000、Windows 98 を示します。
- MS-IME Microsoft® IME スタンダード 2002、Microsoft® IME 2000、Microsoft® IME 98 を示します。
- PCI LAN インタフェース ... 特に説明がない場合は、パソコン本体に実装されている 10BASE-T および 100BASE-TX 対応の LAN インタフェースを示します。
- アプリケーションまたはアプリケーションソフト
..... アプリケーションソフトウェアを示します。
- CD-ROM モデル CD-ROM ドライブが内蔵されているモデルを示します。
- CD-R/RW モデル CD-R/RW ドライブが内蔵されているモデルを示します。
- アプリケーションモデル... Microsoft® Office XP Personal がプレインストールされているモデルを示します。

1

パソコンの準備

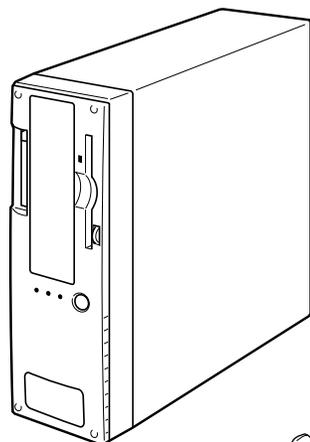
本章では、パソコンの電源を入れる前に、必要な準備と「Windows セットアップ」について説明します。

1	同梱品の確認	10
2	各部の名称と機能	11
3	接続について	17
4	初めて電源を入れるときは	25

1 同梱品の確認

主な同梱物を次にあげます。添付の『付属品チェックリスト』にて梱包箱の中の付属品をご確認ください。

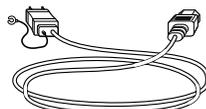
万一、本製品に不都合な点が生じた場合は、東芝営業窓口または、『保守サービスのご案内』をご覧のうえ、お近くのサービスステーションまでご連絡ください。



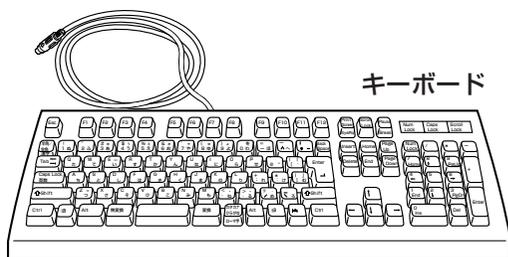
EQUIUM本体



マウス



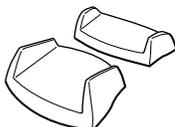
電源コード



キーボード



ゴム足 (4つ)



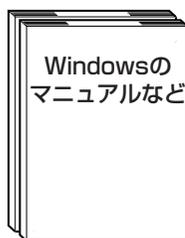
台座



リカバリ用CD-ROMなど
詳細は『付属品チェックリスト』をご覧ください。



EQUIUM
取扱説明書



Windowsの
マニュアルなど



その他の説明書、ご案内など
・安心してお使いいただくために
・保守サービスのご案内
・ソフトウェア使用許諾書
・付属品チェックリスト
・保証書
など

(注) この他にも、同梱物があります。『付属品チェックリスト』をご覧ください。

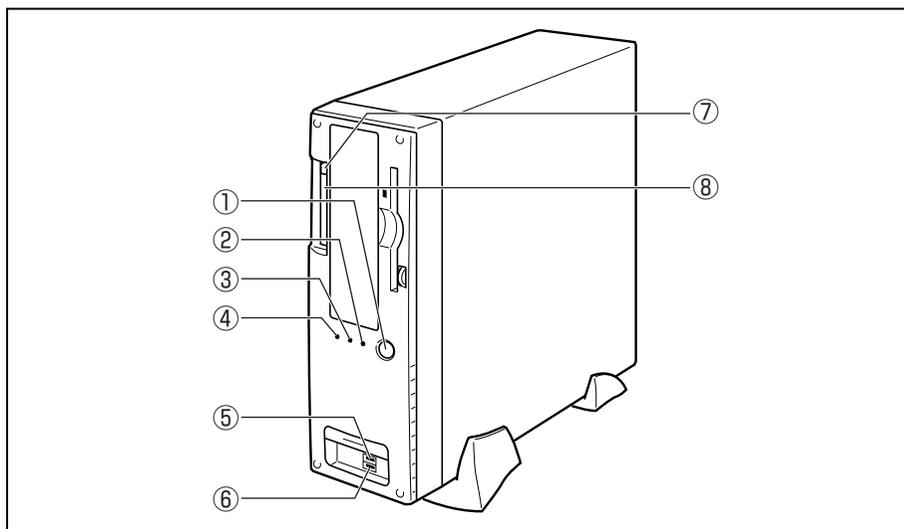


メモ

- ・Windows 2000 モデルに同梱されるアプリケーション CD には、Windows 2000 で利用になれるドライバおよびアプリケーションが入っています。「Intel LANDesk Client Manager」もアプリケーション CD に含まれています。アプリケーション CD の詳細については、アプリケーション CD をセットし、表示される初期画面をご覧ください。
- ・システムを Windows 98 から、Windows 2000 に変更する場合は、同システムの市販品の購入が必要です。本製品に対応のドライバは東芝 PC 総合情報サイト [http://dynabook.com/] に掲載予定です。ただし、対応可能な機能には制限があります。

2 各部の名称と機能

1 本体正面



①電源スイッチ

パソコン本体の電源を入れるためのスイッチです。

電源を入れるときは、電源スイッチを押し、電源ランプが点灯したことを確認してから離します。

Windows が起動した状態で押すと、省電力モードになります。省電力モード時に押すと、通常モードに復帰します。4 秒以上押し続けた場合は強制的に電源を切ります。強制的に電源を切ると、作成中のデータは消失します。



注意 ・スイッチ類を強く押し込まないでください。

本体が壊れるおそれがあります。

・通常モードから省電力モードへの切り替えおよび省電力モードの解除には、多少時間がかかります（システムの状態によって異なります）。

 電源の入れかた／切りかたについて ⇨ 「2 章 電源の入れかたと切りかた」

②電源ランプ

電源が ON のとき緑色に点灯します。

パソコン本体が省電力モードのときは緑色に点滅します。



お願い

・ディスプレイの画面が真っ暗でも、電源ランプが緑色に点滅している時は省電力モードになっています。電源スイッチを 4 秒以上押し続けると、電源が切れます。作成中のデータが消失するおそれがあるので、電源スイッチを 4 秒以上押さないでください。

 省電力モードについて ⇨ 「2 章 3 省電力機能について」

③HDD アクセスランプ

ハードディスクドライブの読み書きが行われているときに緑色に点灯します。

④LAN アクティブランプ

LAN に接続しているときに橙色に点灯します。

⑤ USB コネクタ 1 

USB 機器が接続できます。

⑥ USB コネクタ 2 

USB 機器が接続できます。

⑦ PC カードレバー

レバーを押すと、PC カードを取りはずすことができます。

⑧ PC カードスロット

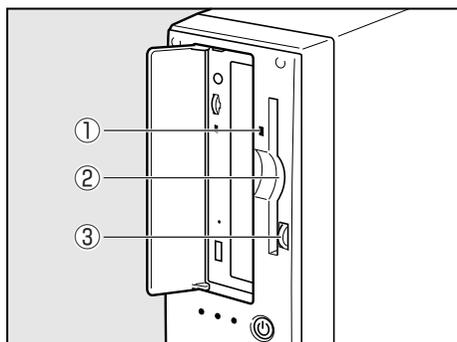
PC Card Standard TYPE I / II に対応した PC カードを取り付けることができます。

 PC カードの取り付け/取りはずし  「3 章 3 PC カード」

フロッピーディスクドライブ

3.5 型 2HD、2DD 形式のフロッピーディスクが使用できます。

部分拡大図 (本体正面)



① FDD アクセスランプ

フロッピーディスクの読み書きが行われているときに緑色に点灯します。

② ディスク挿入口

フロッピーディスクを挿入します。
取り出しは、イジェクトボタンで行います。

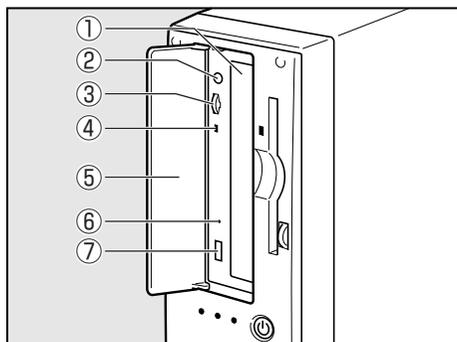
③ イジェクトボタン

フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブから取り出すとき、押します。

CD-ROM ドライブ / CD-R/RW ドライブ

*ご購入のモデルにより、異なります。

CD-ROM ドライブ部分拡大図 (CD-ROM モデルの場合)



① ディスクトレイ

CD をセットする部分です。

② ステレオホンジャック

3.5 φ mm ステレオミニジャックタイプのヘッドホンかイヤホンを接続できます。
音楽 CD をアナログ再生しているときに CD サウンドが出力されます。

③ ボリューム

②ステレオホンジャックから出力される CD サウンドの音量を調整できます。

④ CD アクセスランプ

CD の読み取りが行われているときに、橙色に点灯します。

⑤ ドライブドア

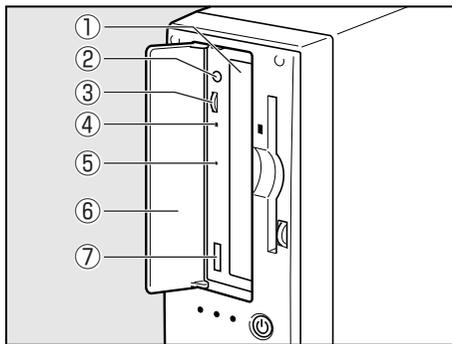
⑥ イジェクトホール

故障などで電源が入らない場合、ディスクを強制的に出すときに使用します。
通常は使用しません。

⑦ イジェクトボタン

ディスクトレイの出し入れのときに押します。

CD-R/RW ドライブ部分拡大図 (CD-R/RW モデルの場合)



① ディスクトレイ

CD をセットする部分です。

② ステレオホンジャック

3.5 φ mm ステレオミニジャックタイプのヘッドホンかイヤホンを接続できます。
音楽 CD をアナログ再生しているときに CD サウンドが出力されます。

③ ボリューム

② ステレオホンジャックから出力される CD サウンドの音量を調整できます。

④ CD アクセスランプ

CD へのアクセスが行われているときに、橙色に点灯します。

⑤ イジェクトホール

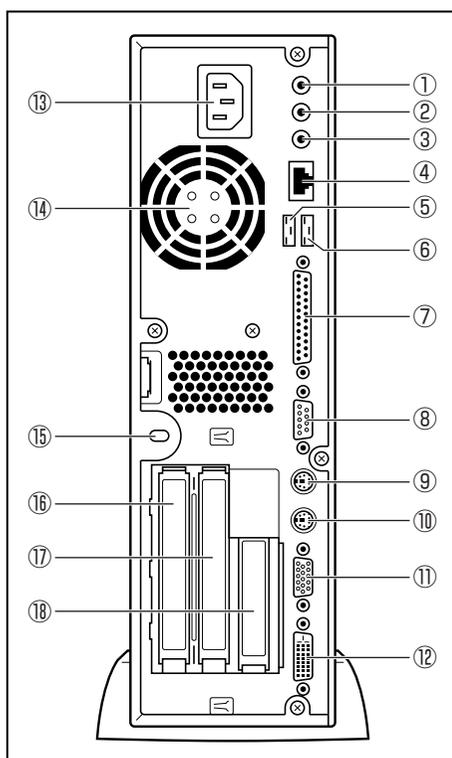
故障などで電源が入らない場合、ディスクを強制的に出すときに使用します。
通常は使用しません。

⑥ ドライブドア

⑦ イジェクトボタン

ディスクトレイの出し入れのときに押します。

2 本体背面



① マイク端子

3.5 φ mm モノラルミニジャックタイプのマイクが接続できます（本製品にマイクは付属していません。パソコン用コンデンサマイクをお買い求めください）。

② LINE IN 端子

オーディオ機器などが接続できます。

③ LINE OUT 端子

3.5 φ mm ステレオミニジャックタイプのスピーカが接続できます。

本製品にはモノラルのスピーカが内蔵されていますが、外部スピーカを接続した場合、内蔵スピーカからはサウンド出力されません（本製品には外部スピーカは付属していません。アンプ付き外部スピーカをお買い求めください）。

④ LAN コネクタ

ネットワークケーブルを接続します。ネットワーク管理者の指示に従って、ネットワークの設定を行なってください。

⑤ USB コネクタ 3

USB 機器が接続できます。

⑥ USB コネクタ 4

USB 機器が接続できます。

⑦パラレルコネクタ (プリンタ) 

プリンタが接続できます。

⑧シリアルコネクタ 

RS-232C 規格の機器が接続できます。

⑨マウスコネクタ 

付属の PS/2 マウスを接続します。

☞ マウスの接続 ⇨ 「本章 3-4 マウスの接続」

⑩キーボードコネクタ 

付属のキーボードを接続します。

☞ キーボードの接続 ⇨ 「本章 3-5 キーボードの接続」

⑪アナログ RGB コネクタ 

ディスプレイを接続します。

☞ ディスプレイの接続 ⇨ 「本章 3-3 ディスプレイ (別売り) の接続」

⑫デジタル RGB コネクタ DVI

DVI 準拠のディスプレイをつなげるためのコネクタです。他社製デジタル RGB ディスプレイにつなげた場合、正常に表示できない場合があります。

☞ ディスプレイの接続 ⇨ 「本章 3-3 ディスプレイ (別売り) の接続」

⑬電源コネクタ (AC POWER INLET)

電源コードを接続します。

☞ 電源の接続 ⇨ 「本章 3-6 電源への接続」

⑭ファン (通風孔)

本体内部で発生する熱を放出します。ふさがないでください。

⑮セキュリティロックスロット

市販の盗難防止用チェーンロックなどを取り付けます。

⑯⑰ PCI スロット

PCI 対応カード (106.68mm × 150mm) が取り付けられます。

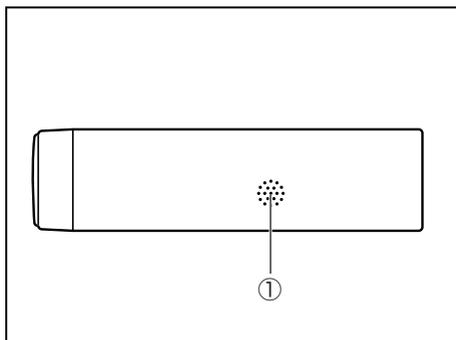
☞ 装着可能なオプションカード ⇨ 「3 章 7 オプションカード」

⑱ Low Profile PCI スロット

Low Profile 対応の PCI カード (64.41mm × 150mm) が取り付けられます。

☞ 装着可能なオプションカード ⇨ 「3 章 7 オプションカード」

3 本体底面

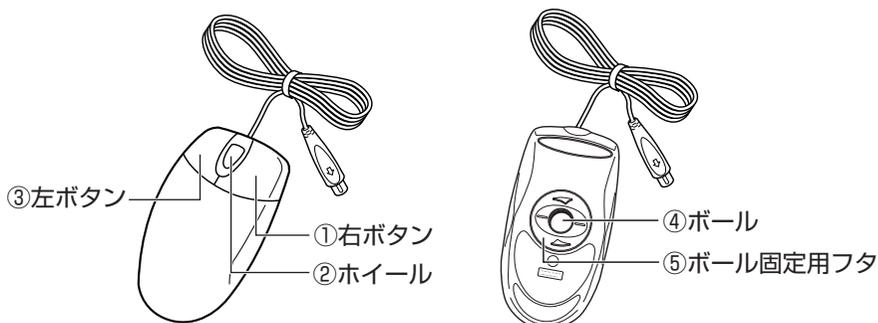


①内蔵スピーカ

サウンドが出力されます。

内蔵スピーカはモノラル再生で出力が小さいため、ボリュームを大きくした場合、再生音が震える（ひび割れる）ことがあります。CDやMIDIなどの音楽を再生する場合は、アンプ内蔵の外部スピーカで再生することをおすすめします（本製品には外部スピーカは付属していません）。LINE OUT 端子に外部スピーカを接続した場合、内蔵スピーカからサウンドは出力されません。

4 マウス



①右ボタン

操作を取り消したり、文字やアイコンのコピーを行います（アプリケーションにより、機能が異なります）。

②ホイール

画面のスクロールなどができます（ホイール付きマウス対応のアプリケーションで使用できます）。

③左ボタン

文字やアイコンを選択することができます（アプリケーションにより、機能が異なります）。

④ボール

マウスの中に入っています。ボールが転がる方向に合わせて画面上のマウスポインタが移動します。

⑤ボール固定用フタ

ボールが飛び出さないように押さえているフタです。マウスのお手入れのときのみ、取りはずしてください。

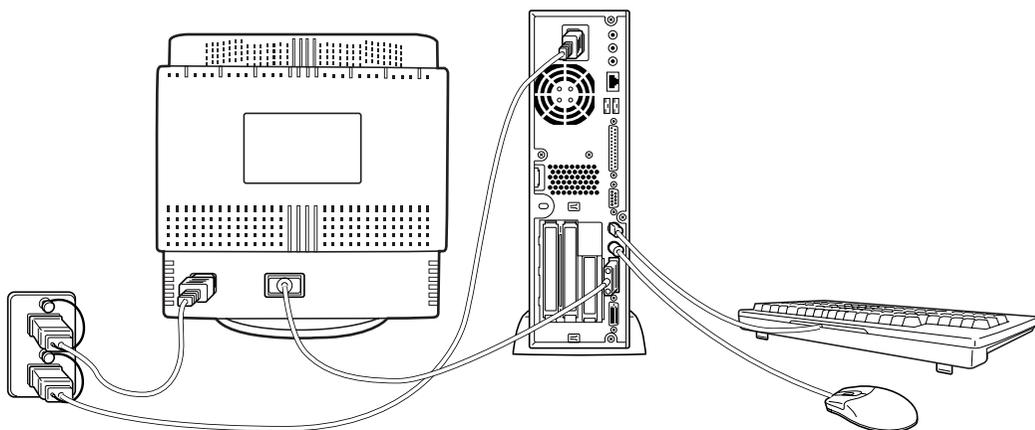
3 接続について

ケーブル類を接続する際には、次のことにご注意ください。

- 本体および接続する機器の電源を切るか、または電源スイッチを OFF にする
- ケーブル類の取り付け／取りはずしは、必ずコネクタを持って行う
- コネクタの形状に注意して挿入し、コネクタに固定ネジがある場合はしっかりと固定する
- 次のものはシステムのセットアップが終了してから接続する
 - ・ LAN ケーブル
 - ・ 増設メモリ
 - ・ プリンタなどの周辺機器

1 接続完成図

EQUIUM を接続した例を次に示します。



(注) EQUIUM にディスプレイは同梱されておりません。

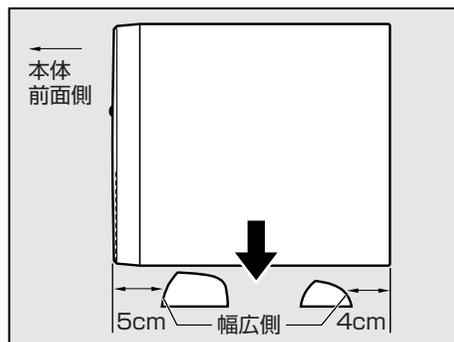
② 台座またはゴム足の取り付け

● 台座の取り付け

本体を縦置きで使用する場合は台座にのせて使用します。

1 図のような向きに台座を置き、上から本体をのせる

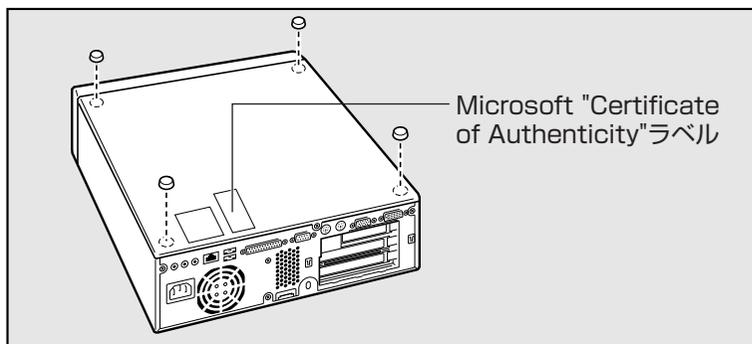
台座は、横幅の広い方をそれぞれ外側にして、大きい方を前から5cm、小さい方を後ろから4cm程度を目安に置いてください。また、本体底面には内蔵スピーカがありますので、台座でスピーカをふさがないようにしてください。



● ゴム足の取り付け

本体を横置きで使用する場合には、底面になる側（Microsoft "Certificate of Authenticity" ラベルが貼られている側）にゴム足を取り付けて使用します。

ゴム足は底面の四隅に取り付けます。



- 注意** ・本体を横置きに設置する場合は、次のことを必ず守ってください。故障の原因となります。
- ・20kg以下のディスプレイ以外のはせないでください。
 - ・コップ、花瓶などの液体の入った容器は絶対にのせないでください。



お願い

- ・本体を横置きに設置しているときは、ドライブドアの前にキーボードなどの障害物があると、ディスクトレイがイジェクトされない場合があります。ドライブドアの前に障害物を置かないようにしてください。

3 ディスプレイ（別売り）の接続

接続の際は『ディスプレイに付属の説明書』をご覧のうえ、作業を行なってください。ディスプレイは必ず接続してください。



お願い

- ・電源コードは、必ず付属の電源コードをお使いください。市販の電源コードや他の電気製品の電源コードには、形状が同じでも定格電圧・電流が異なるものがあります。
- ・電源コードのプラグから出ているアース線は、安全のため必ずアース端子に接続してください。万一漏電した場合の感電を防止します。
- ・電源コードを接続する場合は、(1)アース線、(2)プラグの順に行なってください。



メモ

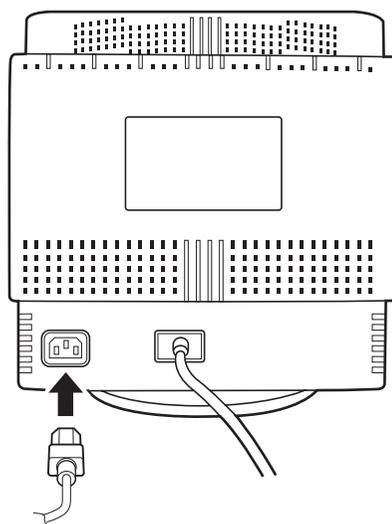
- ・アナログRGBディスプレイとデジタルRGBディスプレイの同時表示はサポートしていません。

● アナログRGBディスプレイの接続

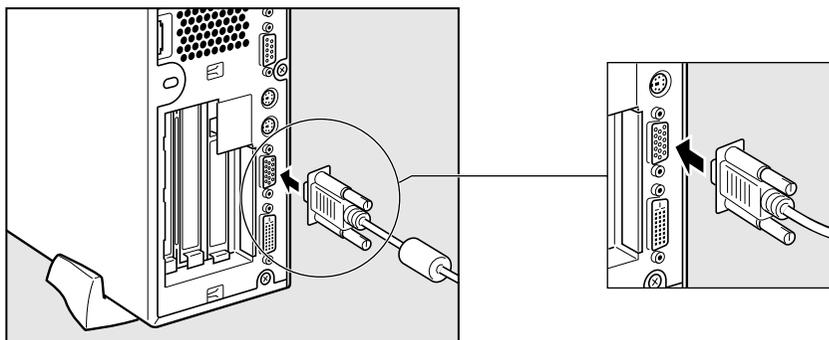
ここでは別売りの15型カラーディスプレイC（PVCRT15C）を例に取り付け／取りはずし方法を説明します。

● 取り付け

- 1 ディスプレイの電源、本体の電源が切断されていることを確認する
- 2 電源コードをディスプレイ背面にある電源コネクタに差し込む



3 信号ケーブルコネクタを本体背面のアナログ RGB コネクタ に接続し、固定用ネジを手で回して固定する

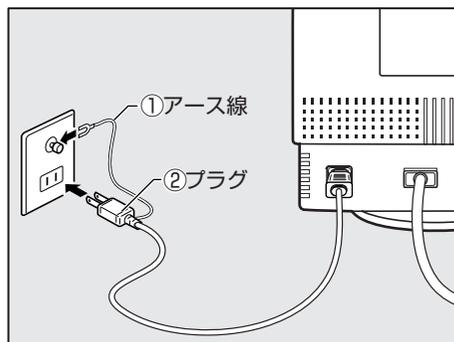


お願い

・固定用ネジは、必ず手で回して固定してください。ドライバなどを使用すると固定用ネジが破損するおそれがあります。

4 電源コードのアース線をアース端子に接続する①

5 電源コードのプラグを電源コンセント (AC100V) に差し込む②



注意 ・AC100V 以外のコンセントには差し込まないでください。

● 取りはずし

信号ケーブル、電源コードを、ディスプレイから取りはずす場合は、ディスプレイの電源と本体の電源が切れていることを確認し、取り付けと逆の手順を行なってください。電源コードを取りはずす場合は、(1)プラグ、(2)アース線の順に行なってください。



注意 ・信号ケーブルを本体から取りはずす場合は、信号ケーブルコネクタの固定用ネジを手でゆるめ、固定用ネジがディスプレイコネクタから完全にはずれた状態で行なってください。
固定用ネジがディスプレイコネクタに接続された状態で、信号ケーブルに負荷（無理に引っ張るなど）をかけると、信号ケーブルの破損、および、本体の故障の原因となります。

● デジタル RGB ディスプレイの接続

ここでは別売りの 15 型フラットパネルディスプレイ K (PVLCD15K) を例に取り付け/取りはずし方法を説明します。

ディスプレイ側のコネクタ、ケーブルの接続については『ディスプレイに付属の説明書』をご覧ください。



メモ

・デジタル RGB ディスプレイをご使用の場合の最大解像度は 1280 × 1024 となります。

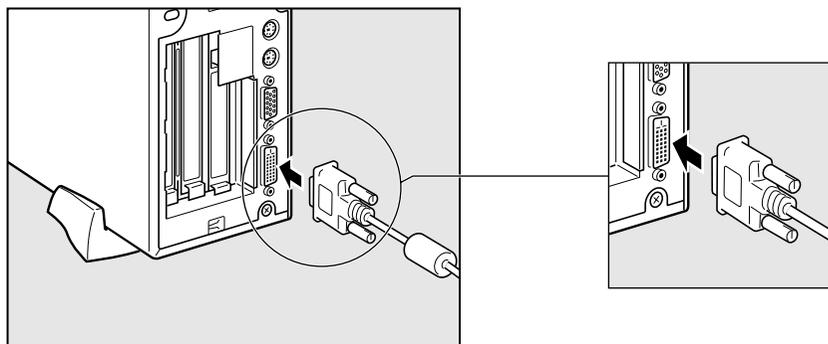
● 取り付け

- 1 ディスプレイの電源、本体の電源が切断されていることを確認する
- 2 AC アダプタのプラグをディスプレイ背面にある電源コネクタに差し込む
- 3 AC アダプタと電源コードを取り付ける
- 4 デジタル RGB 信号ケーブルコネクタを本体背面のデジタル RGB コネクタ DVI に接続し、固定用ネジを手で回して固定する



お願い

・固定用ネジは、必ず手で回して固定してください。ドライバなどを使用すると固定用ネジが破損するおそれがあります。



- 5 ディスプレイに付属のオーディオケーブルをディスプレイ背面のオーディオ端子と本体背面の LINE OUT 端子 (⦿→) に接続する



メモ

・オーディオケーブルを LINE OUT 端子に接続した場合は、本体内蔵スピーカからサウンド出力されません。

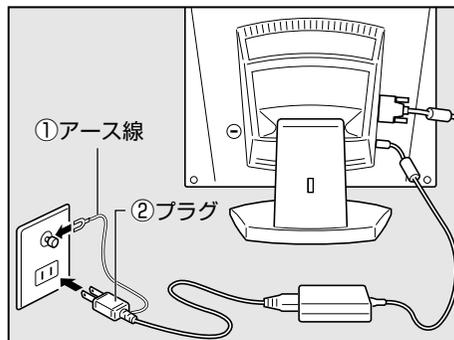
・ディスプレイの機種によっては、オーディオケーブルが付属しない場合があります。この場合は、別売りのオーディオケーブルを使用する、またはパソコン本体背面の LINE OUT 端子にスピーカを接続してください。

・ディスプレイの機種によっては、オーディオ端子がない場合があります。この場合は、パソコン本体背面の LINE OUT 端子にスピーカを接続してください。

☞ 詳細について ☞ 『ディスプレイに付属の説明書』

6 電源コードのアース線をアース端子に接続する①

7 電源コードのプラグを電源コンセント (AC100V) に差し込む②



! 注意 ・AC100V以外のコンセントには差し込まないでください。

● 取りはずし

デジタルRGB信号ケーブル、オーディオケーブル、電源コードを、ディスプレイから取りはずす場合は、ディスプレイの電源と本体の電源が切れていることを確認し、取り付けと逆の手順を行なってください。

電源コードを取りはずす場合は、(1)プラグ、(2)アース線の順に行なってください。

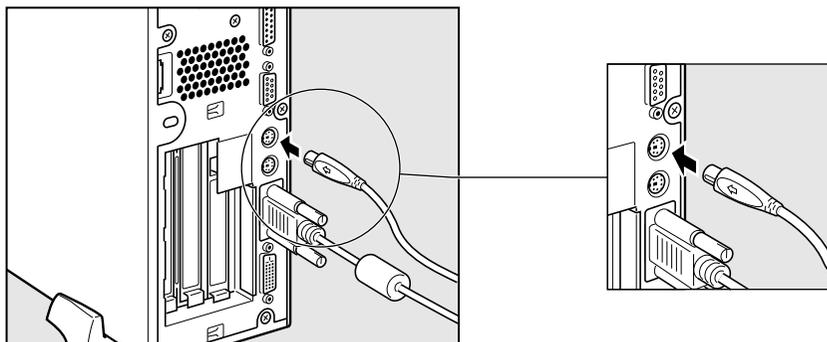
! 注意 ・デジタルRGB信号ケーブルを本体から取りはずす場合は、デジタルRGB信号ケーブルコネクタの固定用ネジを手でゆるめ、固定用ネジがデジタルRGBコネクタから完全にはずれた状態で行なってください。
固定用ネジがデジタルRGBコネクタに接続された状態で、デジタルRGB信号ケーブルに負荷（無理に引っ張るなど）をかけると、デジタルRGB信号ケーブルの破損、および、本体の故障の原因となります。

4 マウスの接続



注意 ・マウスの接続は、本体の電源が切れている状態で行なってください。
本体の電源が入った状態で接続すると、本体の故障の原因となることがあります。

- 1 本体の電源が切断されていることを確認する
- 2 マウスのプラグを本体背面のマウスコネクタ  に差し込む
マウスは、プラグに印刷されている矢印マークを左にして、しっかりと奥まで差し込んでください。

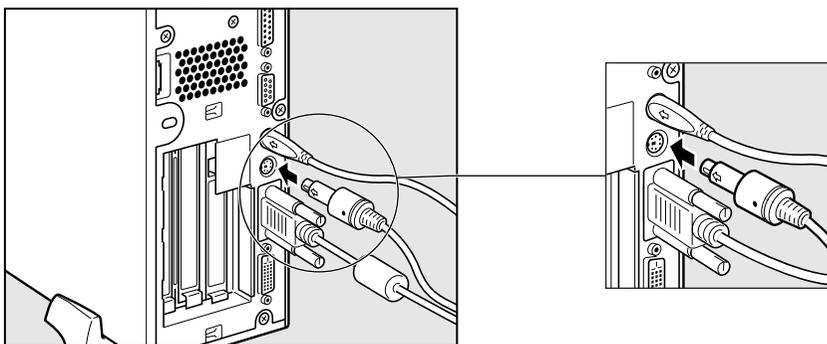


5 キーボードの接続



注意 ・キーボードの接続は、本体の電源が切れている状態で行なってください。
本体の電源が入った状態で接続すると、本体の故障の原因となることがあります。

- 1 本体の電源が切断されていることを確認する
- 2 キーボードのプラグを本体背面のキーボードコネクタ  に差し込む
キーボードは、プラグに印刷されている矢印マークを左にして、しっかりと奥まで差し込んでください。



6 電源への接続

空調機や複写機などの高い消費電力を必要としたり、ノイズを発生させる機器と同じコンセントから電源を取らないでください。

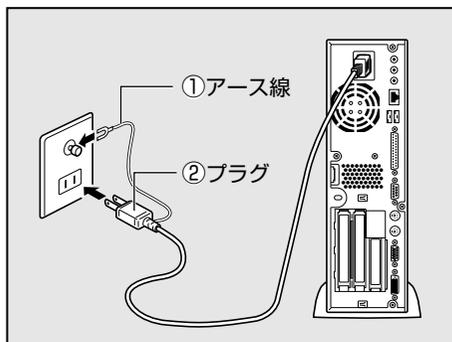
定格電圧	AC100V (50Hz/60Hz)
消費電力	最大130W



お願い

- ・電源コードの接続は、最後に行なってください。
- ・電源コードの接続は、アース線→プラグの順に行なってください。取りはずす場合は、取り付けと逆の順番（プラグ→アース線）で行なってください。

- 1 ディ스플레이の電源が切断されていることを確認する
- 2 電源コードのプラグを本体背面の電源コネクタに差し込む
- 3 電源コードのアース線をアース端子に接続する①
- 4 プラグを電源コンセント (AC100V) に差し込む②



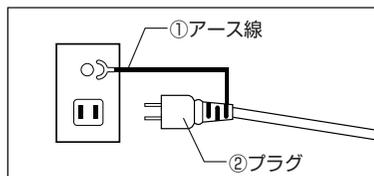
注意

- ・電源コードは付属のアース線付き2ピンコードを使用してください。
- ・アース線は感電を防止するための電線です。コンセントのアース端子に接続しておくと、万一漏電した場合の感電を防止します。安全のために必ず接続してください。



お願い

- ・電源コードの接続は、①アース線、②プラグの順に行なってください。取りはずす場合は、取り付けと逆の順番（プラグ→アース線）で行なってください。
- ・コンセントから抜くときは必ず差し込みプラグを持って引き抜いてください。
- ・コードの上に重いものを載せないでください。
- ・コードを無理に曲げたり、ねじったり、結んだり、つぎ足したりしないでください。
- ・熱器具に触れないよう、十分な距離をとってください。

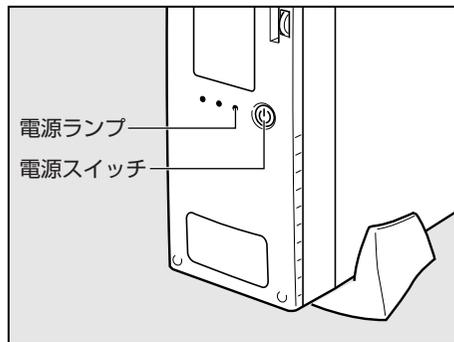


4 初めて電源を入れるときは

1 電源を入れる

1 ディスプレイなど、接続している周辺機器の電源を入れる

2 本体前面の電源スイッチ  を押す
電源ランプ（本体前面の緑色のランプ） が点灯します。本装置は自動的に電源 ON 時にセルフテストを実行します。



パソコン本体の電源を初めて入れるときは、Windows が使えるようにするために、「Windows セットアップ」という操作が必要です。

1 度 Windows のセットアップをすれば、以降は、電源を入れるとすぐに Windows を使用することができます。

本製品には、次のモデルがあります。

- ・ Windows 2000 モデル
- ・ Windows 98 モデル

セットアップの方法はシステムによって異なります。ご購入のモデルを確認のうえ、システムに応じたセットアップ手順をご覧ください。

● セットアップをするときのご注意



- 注意**
- ・ マウスとキーボードが接続されていることを確認してください。接続していないと、セットアップを行うことができません。
 - ・ 増設メモリやオプションカードを取り付けたり、プリンタなどを接続していると、正しくセットアップできない場合があります。ディスプレイやマウス、キーボード以外の周辺機器の取り付けや接続はシステムのセットアップ終了後に行なってください。
 - ・ セットアップを行うときは、LAN ケーブルは接続しないでください。LAN ケーブルが接続されていると、ネットワークの設定が既定値 (default) のままネットワークに接続してしまうため、ネットワークに障害をもたらす場合があります。
 - ・ システムのセットアップ中は、絶対に電源を切らないでください。
 - ・ やむをえない場合以外は、セットアップ中にキャンセルしないでください。正しくセットアップできない場合があります。



お願い

- ・ ケーブル類が確実に接続されていることを、もう 1 度確認してください。
- ・ セットアップを行わないと、あらかじめインストールされているシステム (Windows 2000 / 98) やアプリケーションを使用することはできません。
- ・ 「Windows セットアップ」の動作中は、電源を切らないでください。



メモ

- ・25分以上キーを押さない（マウスの操作も含む）場合、省電力機能がはたらき、画面に表示される内容が見えなくなりますが、故障ではありません。**[Shift]**キーなどを押すと画面に表示されます。また、電源ランプが緑色に点滅しているとき（スタンバイ状態）は、電源スイッチを押す、または、キーボードのキーを押すと画面に表示されます（4秒以上電源スイッチを押し続けると、電源が切れますので、短く押しください）。
- ・Windows 98モデルの場合、起動に時間がかかることがあります。これは出荷時にLANの設定がされているためであり、故障ではありません。
 - ☞ 回避方法
 - ☞ セットアップ終了後、[スタート]メニュー - [はじめに] - [リリース情報]
- ・カスタム・リカバリ CD やリカバリ CD でシステムの復元を行なった場合にも、「Windows セットアップ」の作業が必要です。

② Windows 2000 のセットアップ

Windows 2000 のセットアップでは、次のことを行います。

- マイクロソフト 使用許諾契約書（Windows のライセンス）への同意
マイクロソフト 使用許諾契約書の内容をお読みになり、契約内容に同意するかしないかを選択してください。なお、[同意する] を選択しないと、Windows を使用することはできません。
- ユーザー情報の登録
名前、会社名または組織名（省略可能）を登録します。
- コンピュータ名の指定
使用するコンピュータ名と Administrator のパスワードを入力します。
コンピュータ名の付けかたに関しては、必ずネットワーク管理者にお問い合わせください。
- 日付と時刻の設定
[日付と時刻の設定] 画面でパソコンの日付を時刻を設定します。セットアップ後に変更することが可能です。
- ネットワークの設定
ワークグループまたはドメイン名の設定を行います。
ネットワークの設定は、必ずネットワーク管理者にお問い合わせください。



お願い

- ・Product Key がパソコン本体に貼られている Microsoft "Certificate of Authenticity" ラベルに印刷されています。
Microsoft "Certificate of Authenticity" ラベルは、はがしたり傷つけたりなどして、絶対になくさないでください。再発行はできません。
紛失した場合、マイクロソフト社からの保守が受けられなくなります。

● セットアップの操作手順

次の手順に従ってセットアップを行なってください。

初めて電源を入れると、[Windows 2000 セットアップウィザードの開始] 画面が表示されます。

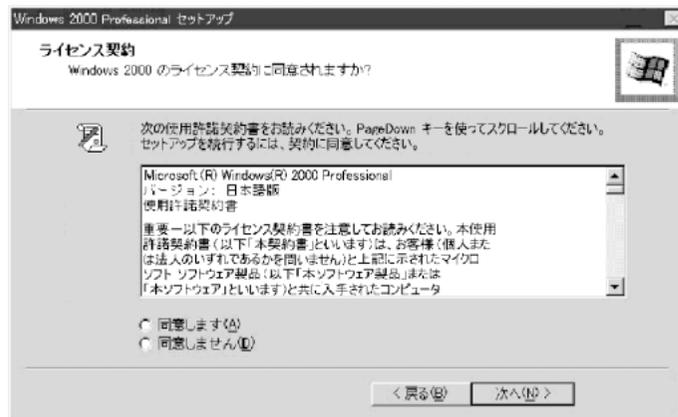


1 [次へ] ボタンをクリックする

[ライセンス契約] 画面が表示されます。

契約の内容を必ずお読みください。

表示されていない部分を見るには、▲▼ボタンをクリックするか、[PageUp] キー / [PageDown] キーを使って、画面をスクロールさせてください。なお、契約に同意しなければ、セットアップを続行することはできません。



2 画面下部の【同意します】をチェックして【次へ】ボタンをクリックする



- ・ [同意しません] を選択した場合は、次にパソコンを起動したとき、最初からセットアップをやり直す必要があります。

[ソフトウェアの個人用設定] 画面が表示されます。



3 名前と組織名を入力する

名前は必ず入力してください。組織名は省略できます。組織名を入力するには、名前の入力後 **[Tab]** キーを押します。



メモ

・日本語入力システムが起動しています。

ひらがなや漢字の入力のしかた

標準状態での入力方法は、ローマ字入力です。

例：“なかた” または “中田” と入力する場合

1 **[N][A][K][A][T][A]** とキーを押す

“なかた” と表示されます。入力ミスをした場合は、**[BackSpace]** キーを押して入力ミスした文字を削除します。

2 ひらがなのままでよい場合は、**[Enter]** キーを押す

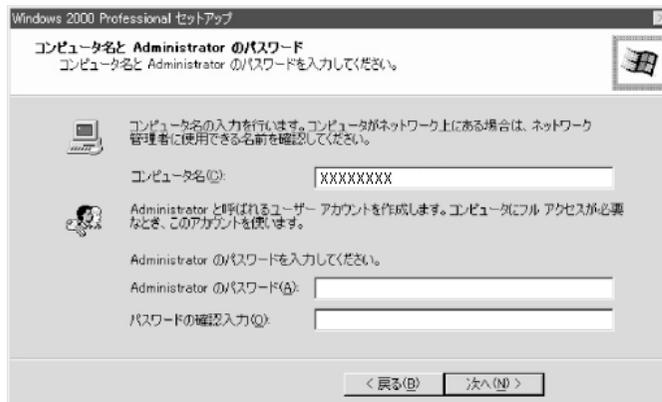
“なかた” で確定されます。

漢字に変換する場合は **[Space]** キーを押し、目的の漢字が表示されたら、**[Enter]** キーを押す

[Space] キーを押すたびに、漢字の候補が表示されます。**[Enter]** キーを押すと、選択した漢字で確定します。

4 [次へ] ボタンをクリックする

[コンピュータ名と Administrator のパスワード] 画面が表示されます。



5 コンピュータ名と Administrator のパスワードを入力する

コンピュータ名の付けかたに関しては、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

Administrator と呼ばれるユーザ名を作成します。コンピュータにフルアクセスする場合に使用します。パスワードには半角の英数字および記号を使用することができます。



お願い

・パスワードは大文字と小文字が区別されますので注意してください。
例えば、「PASSWORD」と「password」は別のパスワードとして識別されます。

6 [次へ] ボタンをクリックする

[日付と時刻の設定] 画面が表示されます。



7 [日付と時刻] の設定をする

日付と時刻を確認します。

タイムゾーンで「(GMT+09:00) 大阪、札幌、東京」が選択されていることを確認します。「(GMT+09:00) 大阪、札幌、東京」が選択されていない場合は▼ボタンをクリックし、一覧から選択してください。

8 [次へ] ボタンをクリックする

[ネットワークの設定] 画面が表示されます。



9 ネットワークの設定をする

ネットワークの設定はネットワーク管理者にお問い合わせください。
標準設定またはカスタム設定のどちらかを選択してください。



メモ

- ・標準設定：Microsoft ネットワーククライアント、Microsoft ネットワークのファイルとプリンタの共有サービス、アドレスを自動的に指定する TCP/IP トランスポートプロトコルを使ってネットワーク接続を作成します。
- ・カスタム設定：手でネットワークコンポーネントを構成することができます。

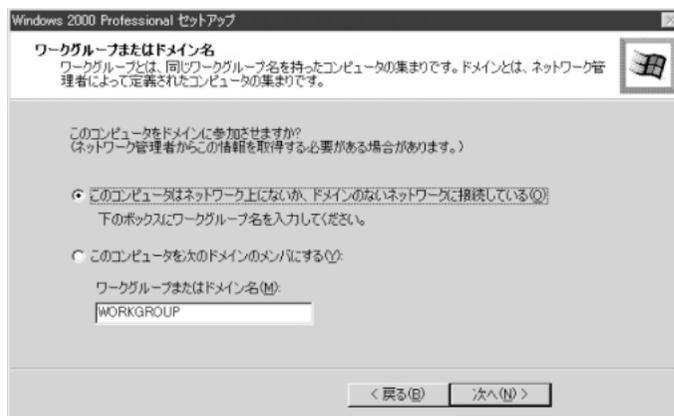


お願い

- ・お使いのネットワーク環境によって設定が異なりますので、ネットワークの設定は必ずネットワーク管理者にお問い合わせください。

10 [次へ] ボタンをクリックする

[ワークグループまたはドメイン名] 画面が表示されます。



11 ワークグループまたはドメイン名の設定をする

ワークグループまたはドメイン名の設定はネットワーク管理者にお問い合わせください。
ワークグループまたはドメインのどちらかを選択してください。
選択後、[ワークグループまたはドメイン名] にワークグループ（ドメイン）名を入力してください。



お願い

- ・お使いのネットワーク環境によって設定、およびワークグループ（ドメイン）名が異なります。必ずネットワーク管理者にお問い合わせください。

12 [次へ] ボタンをクリックする

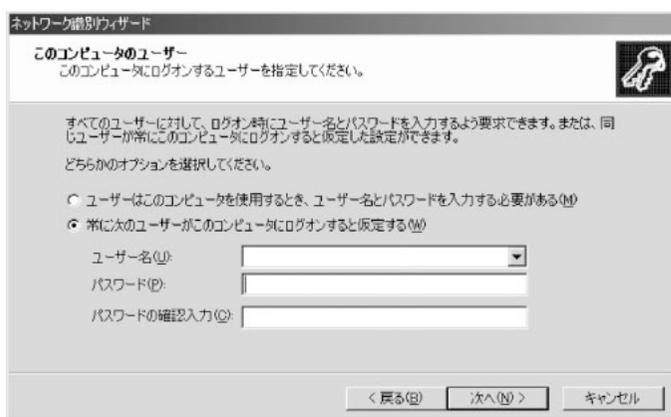
設定を保存後、再起動します。再起動後に [ネットワーク識別ウィザードの開始] 画面が表示されます。

ここで、コンピュータをネットワークに接続する手続きをします。



13 [次へ] ボタンをクリックする

[このコンピュータのユーザー] 画面が表示されます。



14 ユーザの設定をする

このコンピュータで使用するユーザを指定します。

- 「ユーザーはこのコンピュータを使用するとき、ユーザー名とパスワードを入力する必要がある」
..... 指定したユーザでパスワードを入力してからログオンします。
- 「常に次のユーザーがコンピュータにログオンすると仮定する」
..... 指定したユーザで自動的にログオンします。
ここで指定できるユーザは手順3で入力した名前、あるいは Administrator です。
▼ボタンをクリックして選択してください。

15 [次へ] ボタンをクリックする

[ネットワーク識別ウィザードの終了] 画面が表示されます。



16 [完了] ボタンをクリックする

Windows 2000 のセットアップを完了しました。

手順 14 で「ユーザーはこのコンピュータを使用するとき…」を選択した場合、[Windows へログオン] 画面が表示されます。Administrator のパスワードを入力して [OK] ボタンをクリックすると、Administrator でログオンし、[Windows 2000 の紹介] 画面が表示されます。

手順 14 で「常に次のユーザーがコンピュータに…」を選択した場合、指定されたユーザー (Administrator または例: 中田) で自動的にログオンし、[Windows 2000 の紹介] 画面が表示されます。



メモ

- ・ [Windows 2000 の紹介] の下部にあるチェックボックス (スタートアップ時にこの画面を表示) をクリックしてチェックを解除すると、次に Windows 2000 が起動したときは [Windows 2000 の紹介] は表示されません。
- ・ [Windows 2000 の紹介] 画面を再表示する方法 ⇨ 『Windows 2000 のヘルプ』
- ・ ご購入時は、次のようなパーティションがハードディスクに作成されています。
C ドライブ: NTFS システム
- ・ 東芝とマイクロソフト社へのユーザ登録を行なってください。
- ・ ユーザ登録 ⇨ 「本節 4 ユーザ登録をする」

● Windows の使いかた

Windows の使いかたについては、『マイクロソフト ウィンドウズ 2000 プロフェッショナル クイックスタートガイド』、または [スタート] - [ヘルプ] をクリックして、『Windows 2000 のヘルプ』をご覧ください。

3 Windows 98 のセットアップ

Windows 98 のセットアップでは次のことを行います。

- ユーザー情報の登録
名前とふりがな（省略可能）を登録します。
- マイクロソフト ソフトウェア使用許諾契約書（Windows のライセンス）
マイクロソフト ソフトウェア使用許諾契約書の内容をお読みになり、契約内容に同意するかしないかを選択してください。なお、[同意する] を選択しないと、Windows を使用することはできません。
- 日付と時刻の設定
[日付と時刻のプロパティ] 画面の [日付と時刻] タブで、パソコンの日付と時刻を設定します。セットアップ後に変更することが可能です。

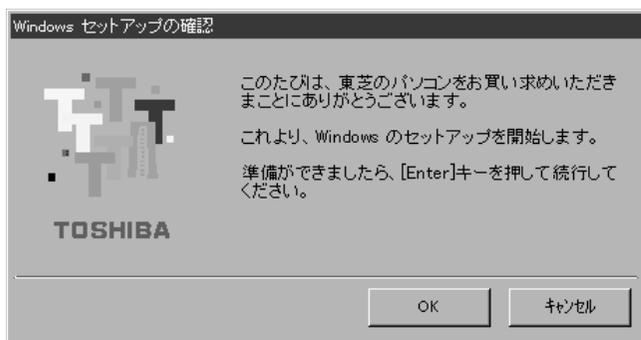


お願い

- ・ Product Key がパソコン本体に貼られている Microsoft "Certificate of Authenticity" ラベルに印刷されています。
Microsoft "Certificate of Authenticity" ラベルは、はがしたり傷つけたりなどして、絶対になくさないでください。再発行はできません。
紛失した場合、マイクロソフト社からの保守が受けられなくなります。

● セットアップの操作手順

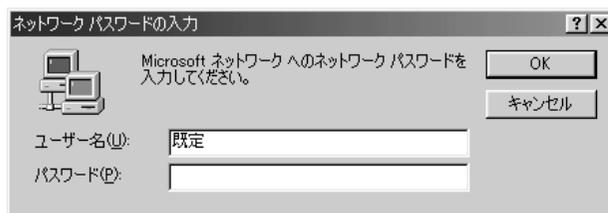
初めて電源を入れると、[Windows セットアップの確認] 画面が表示されます。



1 [Enter] キーを押す

Windows のセットアップが開始されます。

パソコンが再起動し、[ネットワークパスワードの入力] 画面が表示されます。



2 ユーザー名を入力する

[Shift] + [Tab] キーを押すと、カーソルがユーザー名に移動します。

[Delete] キーを押して「既定」を削除します。

ユーザー名はひらがな、漢字、半角英数文字が使用できます。

ひらがなや漢字を入力するには、MS-IME を起動します。MS-IME とは、かなや漢字を入力するための日本語入力システムです。[半角/全角] キー（MS-IME2002 の場合）または [Alt] + [半角/全角] キー（MS-IME98 の場合）を押してください。



メモ

・ひらがなや漢字の入力のしかた

標準状態での入力方法は、ローマ字入力です。

例：“なかた” または “中田” と入力する場合

1 [N][A][K][A][T][A] とキーを押す

“なかた” と表示されます。入力ミスをした場合は、[BackSpace] キーを押して入力ミスした文字を削除します。

2 ひらがなのままでよい場合は、[Enter] キーを押す

“なかた” で確定されます。

漢字に変換する場合は [Space] キーを押し、目的の漢字が表示されたら、[Enter] キーを押す

[Space] キーを押すたびに、漢字の候補が表示されます。[Enter] キーを押すと、選択した漢字で確定します。

3 パスワードを入力する

ユーザー名の入力が終わった後、[Tab] キーを押します。

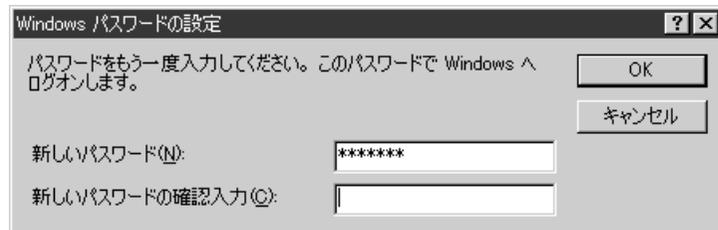
パスワードには半角の英数文字および記号を使用することができます。4～8文字を目安に設定してください。

入力したパスワードは「****」で表示されます。

パスワードは間違いのないように入力してください。入力ミスをした場合は、

[BackSpace] キーを押して入力ミスした文字を削除します。パスワードの入力が終わったら、[OK] ボタンをクリックします。

[Windows パスワードの設定] 画面が表示されます。



4 登録したパスワードをもう1度入力し、[OK] ボタンをクリックする [ようこそ] 画面が表示されます。



入力したパスワードが間違っている場合は、メッセージが表示されますので、[OK] ボタンをクリックしてメッセージを消した後、パスワードをもう1度入力し直してください。



メモ

・登録したパスワードを正しく入力できない場合

- 1 [Delete] キーで [新しいパスワードの確認入力] のパスワードをすべて削除する
- 2 [Shift] + [Tab] キーを押す
カーソルが [新しいパスワード] に戻ります。
- 3 [Delete] キーを押して、いったんパスワードをすべて削除する
- 4 新しいパスワードを入力する
- 5 [Tab] キーを押す
- 6 [新しいパスワードの確認入力] に同じパスワードを入力する
- 7 [OK] ボタンをクリックする

5 [Esc] キーを押す

MS-IME のチュートリアルに進み、入力の練習を行う場合は [M] キーを押してください。

入力の練習を行わなかった場合、または練習が終了したあとに、[Windows 98 へようこそ] 画面が表示されます。



6 名前とふりがなを入力する

名前は必ず入力してください。ふりがなは省略できます。ふりがなを入力するには、名前を入力した後、**[Tab]**キーを押します。

ひらがなや漢字を入力するには、日本語入力システム（MS-IME）を起動します。

[半角/全角]キー（MS-IME2002の場合）または **[Alt] + [半角/全角]**キー（MS-IME98の場合）を押してください。

7 [次へ] ボタンをクリックする

[Windows ユーザー使用許諾契約] 画面が表示されます。

契約内容を、必ずお読みください。

表示されていない部分を見るには、**▲▼**ボタンをクリックするか、**[PageUp]**キー/**[PageDown]**キーを使って画面を動かしてください。

なお、契約に同意しなければ、セットアップを続行することはできません。



8 画面の [同意する] をチェック (左側の○印をクリック) して、[次へ] ボタンをクリックする

[セットアップの完了] 画面が表示されます。



9 [完了] ボタンをクリックする

[日付と時刻のプロパティ] 画面が表示されます。



10 [日付] と [時刻] が正しく設定されているか確認する

正しく設定されていない場合は設定してください。設定後、[適用] ボタンをクリックすると、日付および時刻の設定が確定され、パソコンの時計が動作します。

11 [タイムゾーン] で [(GMT+09:00) 東京、大阪、札幌] が選択されていることを確認する

[(GMT+09:00) 東京、大阪、札幌] が選択されていない場合は、▼ボタンをクリックし、一覧から選択してください。

12 [閉じる] ボタンをクリックする

[日付]、[時刻]、[タイムゾーン] を変更した場合は、[OK] ボタンをクリックしてください。Windows のセットアップが終了し、Windows のデスクトップ画面が表示されます。



メモ

・ 東芝とマイクロソフト社へのユーザ登録を行なってください。
ユーザ登録 ⇨ 「本節 4 ユーザ登録をする」

● Windows の使いかた

Windows の使いかたについては、同梱されている『ファーストステップガイド Microsoft Windows 98 SECOND EDITION』をご覧ください。

4 ユーザ登録をする

東芝へのユーザ登録およびマイクロソフト社へのユーザ登録は必ず行なってください。登録はそれぞれ行う必要があります。登録を行わないと、今後のサポートを受けられない場合があります。インターネットで登録する場合は、モデムなどが必要です（本製品はモデムを搭載しておりません）。インターネットをご利用になるには、プロバイダとの契約が必要です。LANを使ってインターネットをご利用になる場合は、ネットワーク管理者にご確認ください。

● 東芝へのユーザ登録

同梱されている登録はがき、またはインターネットで登録できます。

インターネットで登録する場合

インターネットに接続するための設定を行なった後、次のアドレスを入力し、表示された画面から登録を行う

http://www3.toshiba.co.jp/tpmc/userj/index_j.htm

● マイクロソフト社へのユーザ登録

同梱されている登録はがきで登録できます。また、インターネットでも登録できます。

インターネットで登録する場合

インターネットに接続するための設定を行なった後、次のように登録します。

● Windows 2000 の場合

[スタート] - [プログラム] - [アクセサリ] - [システムツール] - [はじめに] で [今すぐ登録] をクリックする

● Windows 98 の場合

[スタート] - [プログラム] - [アクセサリ] - [システムツール] - [Windows へようこそ] で [今すぐ登録] をクリックする

2

電源の入れかたと切りかた

本章では、パソコン本体の電源の入れかたと切りかたについて説明します。

1	電源の入れかた	42
2	電源の切りかた	43
3	省電力機能について	44

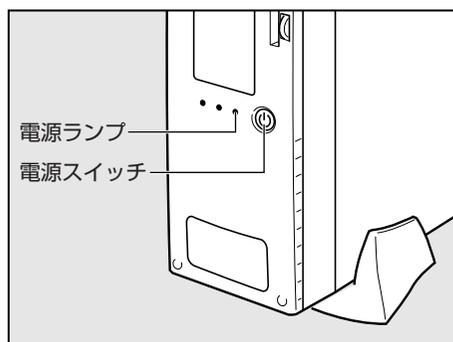
1 電源の入れかた

ここでは、Windows のセットアップを終えた後、電源を入れる方法について説明します。

1 ディスプレイなど、接続している周辺機器の電源を入れる

2 本体前面の電源スイッチ を押す

電源ランプ（本体前面の緑色のランプ）が点灯します。本装置は自動的に電源 ON 時にセルフテストを実行します。



メモ

- ・パソコン本体が起動すると、自動的にパソコン内部のテストを行います。これをセルフテストといいます。セルフテストによって、エラーが発見される場合があります。
 - ☞ セルフテストでのエラーの対処方法について ⇨ 「付録 3 エラーメッセージ」
- ・フロッピーディスクや起動可能な CD をセットしたまま電源を入れると、ハードディスクドライブからシステムが起動しません。
フロッピーディスクや CD を取り出して、もう 1 度電源を入れてください。

2 電源の切りかた

電源を切る方法はシステムによって異なります。
お使いのシステムを確認のうえ、次の手順に従って電源を切ってください。

● 電源切断時のお願い

- 電源スイッチで電源を切らないでください。作業中に電源スイッチで電源を切ると、故障やデータ消失の原因になります。
なお、システムの異常などで強制的に電源を切りたい場合は、電源スイッチを4秒以上押し続けると電源が切れます。その際、データは消失する可能性があります。
- 電源を切ったあと、もう1度電源を入れる場合は、5秒以上たってから入れてください。5秒以上経過していない場合は、誤動作することがあります。
- アプリケーションが起動しているときは、終了処理を行なってシステムに戻してください。
☞ 『各アプリケーションに付属の説明書』
- HDDアクセスランプ 、CDアクセスランプ  が消えていることを確認してください。

1 Windows 2000 の場合

- 1 [スタート] - [シャットダウン] をクリックする
- 2 [Windowsのシャットダウン] 画面で、ドロップダウンリストから [シャットダウン] を選択し、[OK] ボタンをクリックする
- 3 ディスプレイなどの、本装置に接続している周辺機器の電源を切る

2 Windows 98 の場合

- 1 [スタート] - [Windowsの終了] をクリックする
- 2 [電源を切れる状態にする] が選択されていることを確認し、[OK] ボタンをクリックする
- 3 ディスプレイなどの、本装置に接続している周辺機器の電源を切る

3 省電力機能について

1 省電力機能について

省電力機能とは、パソコンのシステム、ハードディスクドライブ、ディスプレイなどを省電力モードにして消費電力を抑制する機能です。

省電力モード中は、次の状態になります。



お願い

・省電力モードでも一定の電力を消費しています。長時間使用しない場合は、1度省電力状態を解除してから Windows を終了してください。

	本体の電源ランプ	システム/ アプリケーション
システムが省電力モード（スタンバイ状態）のとき	緑色に点滅	停止する
ディスプレイが省電力モードのとき	緑色に点灯	停止しない
ハードディスクドライブが省電力モードのとき	緑色に点灯	停止しない
休止状態のとき（Windows 2000のみ）	消灯	停止する

本装置にあらかじめインストールされている Windows には、省電力機能が用意されています。設定されている情報に従って、省電力機能を作動させることができます。ここでは、本装置と Windows の省電力機能について簡単に紹介します。

② 省電力モードについて

本装置にある省電力モードとその動作は次のとおりです。

ディスプレイ	画面表示が消えます。
ハードディスクドライブ	モータの回転を停止します。
オプションカード	停止します。 (*カードによっては本装置を再起動するなどして初期化が必要になります。)
LAN接続 (ネットワークへの接続)	切断します。

● スタンバイ (Windows 2000 / 98)

本装置の消費電力を抑制します。通常モードへの復帰は、多少時間がかかります。また、ネットワークに接続していない場合は時間がかかることがあります。スタンバイはBIOS セットアップの [Power Management Setup] の [ACPI Standby State] で、次のように設定を切り替えることができます。

- ・ [S1/POS] (Power On Suspend) ハードディスクドライブ、ディスプレイ、オプションカードなどの周辺機器の電源を切断します。
- ・ [S3/STR] (Suspend To RAM) メモリ以外の電源を切断します。



メモ

・ BIOS セットアップの [Power Management Setup] の [ACPI Standby State] の工場出荷時は [S3/STR] に設定されています。[S3/STR] の方が消費電力を抑えることができますが、PCI スロットもしくは USB コネクタに接続したデバイスによっては正常にスタンバイ状態に移行しない、またはスタンバイ状態から通常モードに復帰しない場合があります。動作に問題が生じる場合は、[ACPI Standby State] を [S1/POS] に切り替えてください。それでも動作に問題が生じる場合は、省電力機能を使用しない設定に変更してください。

BIOS セットアップについて ⇨ 「7章 BIOS セットアップについて」

● 休止状態 (Windows 2000 のみ)

本装置の消費電力を最小限に抑制します。休止状態に移行する直前の状態をハードディスクに保存します。通常モードへ復帰するとき、休止状態に移行する直前の状態を再現します。通常モードへの復帰は、多少時間がかかります。

3 省電力モードへの移行 (Windows 2000)

設定された時間内にマウスまたはキーボードでの操作がない場合、自動的に省電力モードに移行します。

省電力モードに移行するまでの時間の設定方法は、次のとおりです。

● システムの省電力モード

Windows 2000 のシステムの省電力モードには、スタンバイモードと休止状態があります。

● スタンバイモード

1 [コントロールパネル] を開き、[電源オプション] アイコンをダブルクリックする

2 [電源オプションのプロパティ] の [電源設定] タブの [システムスタンバイ] で時間を選択する

初期値は [25 分後] です。

省電力モードを使用しない場合は、[なし] を選択してください。



・システムをスタンバイモードにすると、LAN 接続は切断され、取り付けられているオプションカードの動作は停止します。

手でシステムをスタンバイモードに移行させることもできます。

操作方法は次のとおりです。

● [スタート] メニューからの実行

① [スタート] ボタンをクリックし、[シャットダウン] をクリックする

② ドロップダウンリストから [スタンバイ] を選択し、[OK] ボタンをクリックする

● 電源スイッチを短く押す

電源スイッチを短く押すことによってスタンバイモードに移行することができます。

電源スイッチを 4 秒以上押すと電源が切れ、作成中のデータが消失するおそれがありますので、電源スイッチは短く押してください。なお、[コントロールパネル] の [電源の管理] の [詳細] タブにある [コンピュータの電源ボタンを押したとき] が [スタンバイ] になっている場合のみ、この機能は有効です。

初期値は [スタンバイ] です。

● 休止状態

- 1 [コントロールパネル] を開き、[電源オプション] アイコンをダブルクリックする
- 2 [電源オプションのプロパティ] の [電源設定] タブの [システム休止状態] で時間を選択する

初期値は [なし] です。

省電力モードを使用しない場合は、[なし] を選択してください。



メモ

- ・システムを休止状態にすると、LAN 接続は切断され、取り付けられているオプションカードの動作は停止します。
- ・[システム休止状態] が表示されていないときは、[休止状態] タブの [休止状態をサポートする] をチェックして [適用] ボタンをクリックしてください。なお、工場出荷時は [休止状態をサポートする] はチェックされています。

手動でシステムを休止状態に移行させることもできます。

操作方法は次のとおりです。

● [スタート] メニューからの実行

- ① [スタート] ボタンをクリックし、[シャットダウン] をクリックする
- ② ドロップダウンリストから [休止状態] を選択し、[OK] ボタンをクリックする

● 電源スイッチを短く押す

電源スイッチを短く押すことによって休止状態に移行することができます。

電源スイッチを 4 秒以上押すと電源が切れ、作成中のデータが消失するおそれがありますので、電源スイッチは短く押してください。なお、[コントロールパネル] の [電源の管理] の [詳細] タブにある [コンピュータの電源ボタンを押したとき] を [休止状態] にする必要があります。

初期値は [スタンバイ] です。

● ディスプレイの省電力モード

- 1 [コントロールパネル] を開き、[電源オプション] アイコンをダブルクリックする
- 2 [電源オプションのプロパティ] の [電源設定] タブの [モニタの電源を切る] で時間を選択する

初期値は [15 分後] です。

省電力モードを使用しない場合は、[なし] を選択してください。

● ハードディスクドライブの省電力モード

- 1 [コントロールパネル] を開き、[電源オプション] アイコンをダブルクリックする
- 2 [電源オプションのプロパティ] の [電源設定] タブの [ハードディスクの電源を切る] で時間を選択する

初期値は [20 分後] です。

省電力モードを使用しない場合は、[なし] を選択してください。

4 省電力モードへの移行 (Windows 98)

設定された時間内にマウスまたはキーボードでの操作がない場合、自動的に省電力モード (スタンバイモード) に移行します。

スタンバイモードに移行するまでの時間の設定方法は、次のとおりです。

システムの省電力モード

- 1 [コントロールパネル] を開き、[電源の管理] アイコンをダブルクリックする
- 2 [電源の管理のプロパティ] の [電源設定] タブの [システムスタンバイ] で時間を選択する

初期値は [25 分後] です。

省電力モードを使用しない場合は、[なし] を選択してください。



・システムをスタンバイモードにすると、LAN 接続は切断され、取り付けられているオプションカードの動作は停止します。

手でシステムをスタンバイモードに移行させることもできます。

操作方法は次のとおりです。

● [スタート] メニューからの実行

- ① [スタート] ボタンをクリックし、[Windows の終了] をクリックする
- ② [スタンバイ] をクリックし、[OK] ボタンをクリックする

● 電源スイッチを短く押す

電源スイッチを短く押すことによってスタンバイモードに移行することができます。

電源スイッチを 4 秒以上押すと電源が切れ、作成中のデータが消失するおそれがありますので、電源スイッチは短く押してください。なお、[コントロールパネル] の [電源の管理] の [詳細] タブにある [コンピュータの電源ボタンを押したとき] が [スタンバイ] になっている場合のみ、この機能は有効です。

初期値は [スタンバイ] です。

ディスプレイの省電力モード

- 1 [コントロールパネル] を開き、[電源の管理] アイコンをダブルクリックする
- 2 [電源の管理のプロパティ] の [電源設定] タブの [モニタの電源を切る] で時間を選択する

初期値は [15 分後] です。

省電力モードを使用しない場合は、[なし] を選択してください。

● ハードディスクドライブの省電力モード

- 1 [コントロールパネル] を開き、[電源の管理] アイコンをダブルクリックする
- 2 [電源の管理のプロパティ] の [電源設定] タブの [ハードディスクの電源を切る] で時間を選択する
初期値は [20 分後] です。
省電力モードを使用しない場合は、[なし] を選択してください。

5 ● 省電力モードからの復帰

● スタンバイモードからの復帰

システムのスタンバイモードから復帰するには、次の操作を行なってください。

- キーボード入力をする
- 電源スイッチを短く押す



・BIOS セットアップの [Power Management Setup] の [ACPI Standby State] が [S1/POS] に設定されているときは、上記のほかに、マウスを動かすことによってスタンバイモードから復帰することもできます。

● 休止状態からの復帰

休止状態から復帰するには、電源スイッチを押してください。

● ディスプレイの省電力モードからの復帰

ディスプレイの省電力モードから復帰するには、下記の操作を行なってください。

- キーボード入力をする
- マウスを動かす

● ハードディスクの省電力モードからの復帰

ハードディスクの省電力モードは、ハードディスクのファイルへアクセスすることで、自動的に省電力モードから復帰します。

3

ハードウェアについて

本章ではパソコン本体にオプションカードや増設メモリなどを取り付ける方法について説明します。注意事項を守り、正しく取り扱ってください。

1	キーボード	52
2	CD-ROM ドライブ / CD-R/RW ドライブ ...	54
3	PC カード	61
4	フロッピーディスクドライブ	64
5	機器の拡張を行うときは	66
6	本体カバーの取りはずし / 取り付け	68
7	オプションカード	71
8	増設メモリ	77

① キーボード

本装置のキーボードは、106日本語（A01）キーボード（Ctrl+英数）にWindowsをより便利に使うWin（ウィンドウズ）キー、アプリケーションキーを追加した109Aキーボードです。

BackSpace（バックスペース）キー ———
カーソルが左に移動し、文字が削除されます。

F（ファンクション）キー（F1～F12） ———
各アプリケーションソフトにより、いろいろな機能が割り当てられます。

Esc（エスケープ）キー ———
操作の取り消しなどに使用します。

Tab（タブ）キー ———
項目を移動するときなどに使用します。

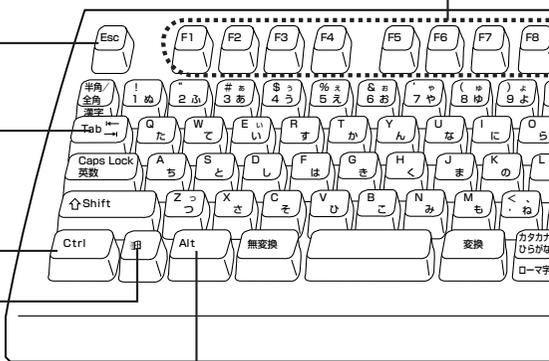
Alt（オルト）キー ———
他のキーと組み合わせて使用します
（アプリケーションごとに機能が異なります）。

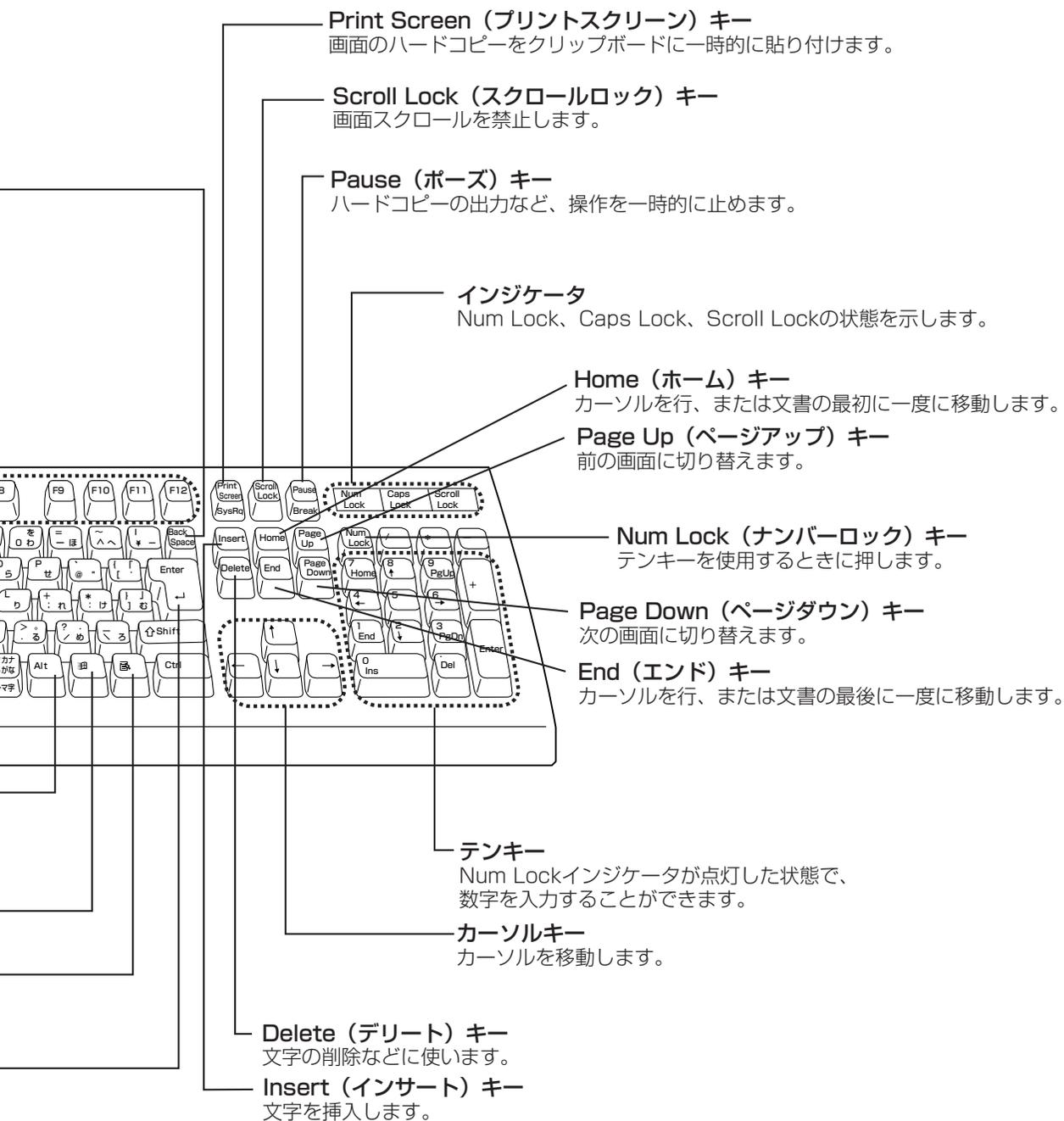
Win（ウィンドウズ）キー ———
他のキーとの組み合わせで、ショートカットとして使用できます。

アプリケーションキー ———
マウスの右ボタンをクリックすることと同様に動作します。

Enter（エンター）キー ———
操作を実行するときなどに使います。

Ctrl（コントロール）キー ———
他のキーと組み合わせて使用します（アプリケーションごとに機能が異なります）。

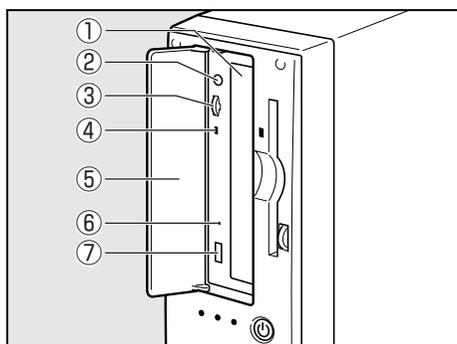




2 CD-ROMドライブ/CD-R/RWドライブ

*内蔵されているドライブの種類は、ご購入のモデルにより、異なります。

CD-ROM ドライブ部分拡大図 (CD-ROM モデルの場合)



① ディスクトレイ

CD をセットする部分です。

② ステレオホンジャック

3.5 φ mm ステレオミニジャックタイプのヘッドホンかイヤホンを接続できます。音楽 CD をアナログ再生しているときに CD サウンドが出力されます。

③ ボリューム

②ステレオホンジャックから出力される CD サウンドの音量を調整できます。

④ CD アクセスランプ

CD の読み取りが行われているときに、橙色に点灯します。

⑤ ドライブドア

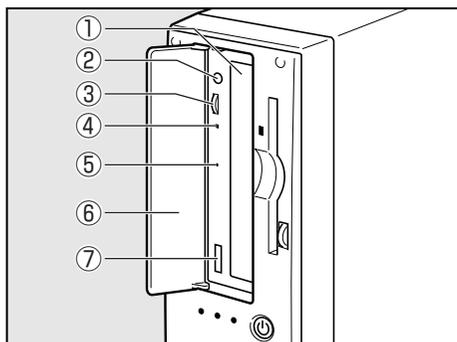
⑥ イジェクトホール

故障などで電源が入らない場合、ディスクを強制的に出すときに使用します。通常は使用しません。

⑦ イジェクトボタン

ディスクトレイの出し入れのときに押します。

CD-R/RW ドライブ部分拡大図 (CD-R/RW モデルの場合)



① ディスクトレイ

CD をセットする部分です。

② ステレオホンジャック

3.5 φ mm ステレオミニジャックタイプのヘッドホンかイヤホンを接続できます。音楽 CD をアナログ再生しているときに CD サウンドが出力されます。

③ ボリューム

②ステレオホンジャックから出力される CD サウンドの音量を調整できます。

④ CD アクセスランプ

CD へのアクセスが行われているときに、橙色に点灯します。

⑤ イジェクトホール

故障などで電源が入らない場合、ディスクを強制的に出すときに使用します。通常は使用しません。

⑥ ドライブドア

⑦ イジェクトボタン

ディスクトレイの出し入れのときに押します。



お願い

- ・ CD をディスクトレイにセットするときは、無理な力をかけないでください。
- ・ CD-ROM ドライブまたは CD-R/RW ドライブの CD アクセスランプが点灯中は、CD を取り出さないでください。故障の原因となる場合があります。
- ・ CD-ROM ドライブまたは CD-R/RW ドライブを使用しないときは、必ず CD を取り出しておいてください。
- ・ 外側を切り欠いた CD など正常な円形ではない CD や、変形した CD、かたよった位置にラベルを貼った CD は使用しないでください。異常振動の発生や故障の原因となります。
- ・ 市販のレンズクリーナは使用しないでください。CD-ROM ドライブまたは CD-R/RW ドライブの故障の原因となります。

● 使用できる CD

読み込みできる CD は、次の種類です。

① 音楽 CD

8cm、12cm の音楽用 CD が聴けます。



お願い

・本体を縦置きに設置している場合は、8cm の CD は使用できません。本体を横置きにして使用してください。

② フォト CD

③ CD-ROM

使用するシステムに適合する ISO9660 フォーマットのもの

④ CD エクストラ

⑤ CD-R

⑥ CD-RW



メモ

・ISO9660 フォーマットとは、パソコンのシステム (OS) や機種が異なっても共通に利用することができる CD-ROM のフォーマットであり、ISO (国際標準化機構) が 1988 年に決めました。

また、CD-R/RW モデルで書き込みできる CD は、次の種類です。

① CD-R (書き込みは 1 回)

② CD-RW

● CD のセットと取り出し



注意

・電源が入っているときには、イジェクトホールを押さないでください。CD のデータや CD-ROM ドライブまたは CD-R/RW ドライブが壊れるおそれがあります。



お願い

・CD のセットと取り出しは、電源 ON 時に行なってください。電源 OFF 時に行なっても、ディスクトレイの出し入れはできません。また、CD のセットと取り出しは、CD アクセスランプが消灯している状態で押ししてください。

故障などで電源が入らない場合は、CD-ROM ドライブまたは CD-R/RW ドライブのイジェクトホールを先の細い、丈夫なもの (例えばクリップを伸ばしたもの) で押しってください。ディスクトレイが出てきます。

・本体を縦置きに設置している場合は、8cm の CD は使用できません。8cm の CD を使用するには、本体を横置きにして使用してください。

・本体を横置きに設置している場合は、ドライブドアの前にキーボードなどの障害物があると、ディスクトレイがイジェクトされないことがあります。ドライブドアの前に障害物を置かないようにしてください。

● CDのセット

CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブへCDをセットするには、次のように行います。

1 [マイコンピュータ]のCD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブアイコン()を右クリックし、表示されたメニューから[取り出し]をクリックする

イジェクトされない場合は、次のように行なってください。

①ドライブドアを開く



・ドライブドアの根元にある金具は先が鋭くなっているため、触れないようにしてください。

お願い

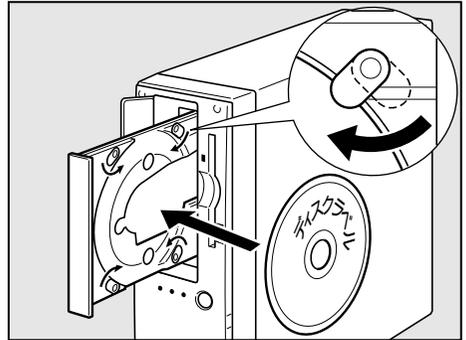
②CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブのイジェクトボタンを押す

2 CDディスクラベルを手前(横置きの場合は上側)にして、ディスクトレイに合わせる

3 縦置きの場合は、4つのディスクホルダを内側にしてCDをディスクトレイに固定する

CD-R/RWドライブの場合は、ディスクホルダはありませんが、CDをディスクトレイに入れば落ちません。

また、縦置きに設置している場合は、8cmのCDは使用できません。8cmのCDを使用するには、本体を横置きにして使用してください。



4 CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブのディスクトレイの中央部を軽く押す

ディスクトレイが格納されます。



注意 ・手でディスクトレイを軽く押すときは、約1kg未満の力で押してください。無理に力を加えると、CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブが壊れるおそれがあります。

5 ディスクトレイが格納されたら、ドライブドアを閉じる

● CDの取り出し

CD-ROM ドライブまたは CD-R/RW ドライブから CD を取り出すには次のように行います。

1 [マイコンピュータ] の CD-ROM ドライブまたは CD-R/RW ドライブアイコン () を右クリックし、表示されたメニューから [取り出し] をクリックする

イジェクトされない場合は、次のように行なってください。

① ドライブドアを開く



お願い

・ドライブドアの根元にある金具は先が鋭くなっているため、触れないようにしてください。

② CD-ROM ドライブまたは CD-R/RW ドライブのイジェクトボタンを押す

2 縦置きの場合は、片方の手で CD を支えておきながら 4 つのディスクホルダを外側にして解除して、CD を取り出す

CD-R/RW ドライブの場合は、ディスクホルダはありません。

3 CD-ROM ドライブまたは CD-R/RW ドライブのディスクトレイの中央部を軽く押す

ディスクトレイが格納されます。



注意 ・手でディスクトレイを軽く押すときは、約 1kg 未満の力で押してください。
無理に力を加えると、CD-ROM ドライブまたは CD-R/RW ドライブが壊れるおそれがあります。

4 ディスクトレイが格納されたら、ドライブドアを閉じる

● CD-R / CD-RW に書き込む

CD-R/RW モデルの場合、CD-R / CD-RW にデータを書き込むことができます。書き込みを行うためのアプリケーションとして、「DirectCD」「Easy CD Creator」をご用意しています。ご使用の際はインストールしてください。インストールについては「Easy CD Creator」のCD-ROMをセットし、表示された画面に従ってください。

CD-R / CD-RW に書き込みを行うときは、次のご注意をよくお読みのうえで使用ください。

守らずにご使用になると、書き込みに失敗するおそれがあります。また、ご使用のパソコンの設定によっては、書き込みに失敗することがあります。

本機に搭載しているCD-R/RWドライブには書き込みエラーを防ぐバッファアンダーランエラー防止機能を内蔵していますが、電源切断やドライブへのショックなどの本体異常や、記録メディアの状態などによっては、処理が正常に行えず、エラーとなる場合があります。

書き込みに失敗したCD-Rの損害については、当社は一切その責任を負いません。また、記憶内容の変化・消失など、CD-R / CD-RW に保存した内容の損害および内容の損失・消失により生じる経済的損害といった派生的損害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。



メモ

・CD-Rに書き込みできるのは1回限りです。書き込みに失敗したCD-Rは再利用できませんが、CD-RWはフォーマットすると再利用できます。

● 書き込む前に

- CD-RはCD-R/RWドライブの書き込み速度に対応しているものをご使用ください。また、ご使用になる際は、次のメーカーのCD-Rをおすすめします。
太陽誘電(株)、三井化学(株)、三菱化学(株)、リコー(株)、日立マクセル(株)、富士写真フイルム(株)、ソニー(株)
上記以外のメーカーのCD-Rをご使用になると、うまく書き込みができない場合があります。
- CD-RWには2倍速対応、1倍速～4倍速対応、そして4倍速～10倍速対応(High Speed CD-RW)があります。メディアの対応速度に合わせた速度で書き込みを行なってください。
また、ご使用になる際は、次のメーカーのCD-RWをおすすめします。
CD-RW : 三菱化学(株)、リコー(株)、日立マクセル(株)、富士写真フイルム(株)、ソニー(株)
High Speed CD-RW : 三菱化学(株)、リコー(株)、日立マクセル(株)、富士写真フイルム(株)
上記以外のメーカーのCD-RWをご使用になると、うまく書き込みができない場合があります。

- スクリーンセーバなどCPUに負担のかかるソフトウェアは動作しないように設定してください。
- ウィルスチェックソフトを起動している場合は、終了させてください。
- 常駐型のディスクユーティリティやディスクのアクセスを高速化させるユーティリティなどは、動作の不安定やデータの破損の原因となりますので使用しないことをおすすめします。
- LANを経由しての書き込みは行わないでください。LANを経由する場合は、データをいったん本製品のハードディスクドライブに保存してから書き込みを行なってください。
- 「DirectCD」「Easy CD Creator」以外のCD-R／CD-RW書き込み用ソフトウェアは動作保証しておりません。
- 書き込みを行う際は、本製品の省電力機能が働かないようにしてください。
 省電力機能について  「2章 3 省電力機能について」
- 書き込み用ソフトウェア以外のソフトウェアは終了させてください。

●書き込み / 削除を行うときは

- マウスを動かす、ウィンドウを開くなど、パソコン本体の操作を行わないでください。
- モデムなど、通信アプリケーションを起動しないでください。
- パソコン本体に衝撃や振動を与えないでください。
- 周辺機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。
- パソコン本体から携帯電話、および他の無線通信装置を離してください。
- 重要なデータについては、必ずデータ書き込み終了後に、データが正しく書き込まれたことを確認してください。
- 「Easy CD Creator」の「data CD project」（データCDプロジェクト）で、重要なデータを書き込む場合は、メニューバーから [ファイル] - [CDプロジェクトプロパティ] をクリックし、[全般] タブで [書き込み後 CD 上のファイルを検証する] をチェックしてください。
 正常に書き込まれていることを確認できます。

3 PC カード

本製品には、PC Card Standard 準拠の TYPE I / II 対応 (Card Bus 対応含む) PC カード (別売り) を取り付けることができます。

● PC カードを使用する前に

- 使用できる PC カードのタイプは、TYPE I / II です。

PC カードの例を次にあげます。

- ・ モデムカード
- ・ SCSI アダプタカード
- ・ スマートメディアアダプタカード
- ・ フラッシュメモリカード

PC カードの大部分は、電源を入れたままの取り付け/取りはずし (ホットインサージョン) に対応しているので、便利です。

お使いの PC カードがホットインサージョンに対応しているか、詳しい使いかたなどについては『PC カードに付属の説明書』をご覧ください。

- PC Card Standard に準拠していない PC カードは使用できません。故障や不具合が発生するおそれがあります。
- 本装置は ZV ポートには対応していません。
- PC カードを使用しないときは、PC カードスロットにダミーカードを差し込んでおいてください。何も挿入されていないと、中にゴミやほこりが入り、故障の原因となることがあります。
- PC カードの裏面にはシールを貼らないでください。シールが貼られていると、カードの取り付けや取りはずしが正常にできない場合があります。また、故障の原因となることがあります。



- 注意**
- ・ ホットインサージョンに対応していない PC カードを使用する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから取り付け/取りはずしを行なってください。電源を入れたまま作業を行うと、PC カードが故障するおそれがあります。
 - ・ PC カードを使用中は、省電力機能を使用しないでください。スタンバイモード/休止状態への移行、通常モードへの復帰が正常に行えない場合があります。
 - ・ システム起動時に PC カードスロットに PC カードを挿入している場合、PC カードを認識しなかったり、起動に時間がかかることがあります。PC カードを認識しない場合は、PC カードのイジェクトスイッチを押し、PC カードを取り出した後、もう 1 度挿入し直してください。
 - ・ スタンバイモード/休止状態の時に PC カードの抜き差しを行わないでください。スタンバイモード/休止状態からの復帰後に PC カードを正常に認識しない場合があります。
 - ・ PC カードを取りはずす際は、PC カードを使用停止状態にしてください。使用停止せずに PC カードを取りはずすとシステムが致命的影響を受ける場合があります。



お願い

- ・ 取りはずすときは、PC カードをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。



メモ

- ・ 市販されている PC カードには、自己発熱の大きいものがあります。このようなカードを長時間動作させていると、自己発熱の影響により、カードの動作が不安定になる場合があります。

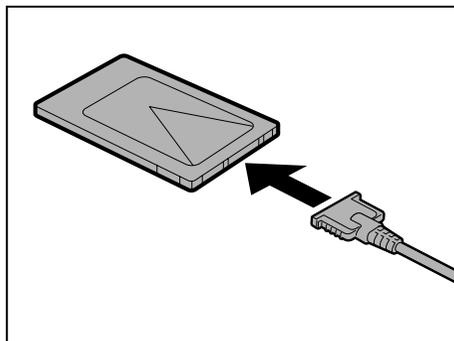
● 取り付け

1 ホットインサージョンに対応していないPCカードを取り付ける場合は、パソコン本体の電源を切る

2 PCカードにケーブルを付ける

モデムカードなど、ケーブルを接続する必要があるカードの場合は、この作業を行なってください。

☞ 詳細について ⇨ 『PCカードに付属の説明書』



(接続例)



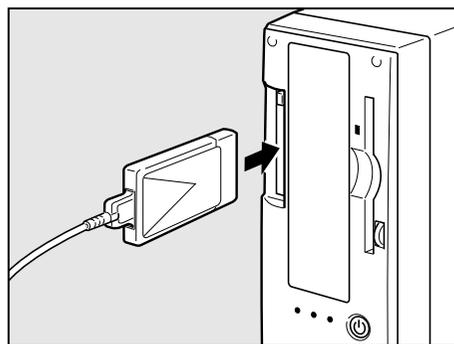
お願い

・ケーブルを接続するときは、コネクタの形状に注意して正しく差し込んでください。コネクタに無理な力が加わるとピンが折れたり、曲がったりします。

3 縦置きの場合は、PCカードの上面（シールが貼られている面）を右側に向け、PCカードを挿入する

横置きの場合は、PCカードの上面を上側に向けて挿入してください。PCカードを挿入するときは、本体の正面からまっすぐ挿入してください。また、カードを確実に接続するために、無理な力を加えずに静かに押ししてください。

確実に奥まで差し込まれていない場合は、PCカードが使用できない、またはPCカードが壊れるおそれがあります。



(接続例)

カードが十分に押し込まれたら、イジェクトボタンが出てきます。

☞ カードの接続および環境の設定方法 ⇨ 『PCカードに付属の説明書』

● 取りはずし

- !** **注意** ・PCカードを取りはずす際は、PCカードを使用停止状態にしてください。
使用停止せずにPCカードを取りはずすとシステムが致命的影響を受ける場合があります。



お願い

・PCカードをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してから取りはずしを行なってください。

1 PCカードの使用を停止する

< Windows 2000 の場合 >

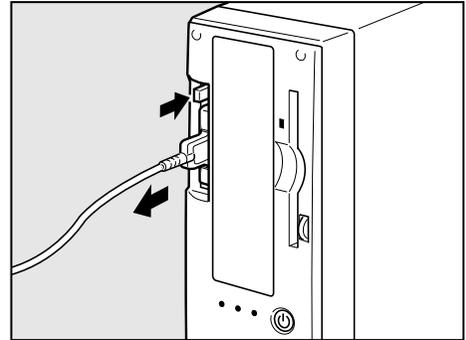
- ① タスクバーにある [ハードウェアの取り外しまたは取り出し] アイコン () をダブルクリックする
- ② 表示される画面で、停止するPCカードを選択し、[停止] ボタンをクリックする
- ③ 表示される画面で、停止するPCカードを確認し、[OK] ボタンをクリックする
- ④ 「安全に取り外すことができます」が表示されたら、[OK] ボタンをクリックする

< Windows 98 の場合 >

- ① タスクバーにある [PCカード] アイコン () をダブルクリックする
- ② 表示される画面で、停止するPCカードを選択し、[停止] ボタンをクリックする
- ③ 「安全に取りはずせます」が表示されたら、[OK] ボタンをクリックする

2 イジェクトボタンを押す

カードが少し出てきます。



(接続例)

3 PCカードをしっかりとつかみ、引き抜く

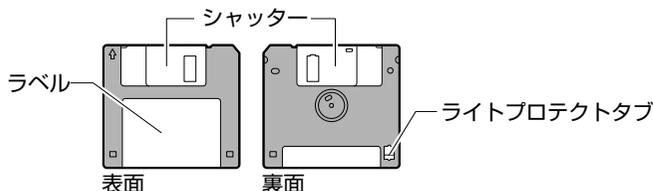
PCカードにケーブルなどが接続されているPCカードを引き抜くときは、ケーブルなどを持って引き抜かないでください。PCカードのコネクタ部やケーブルが破損するおそれがあります。

- !** **注意** ・PCカードは熱を帯びている場合があります。
長時間使用したPCカードを取りはずす際は、PCカードの使用を停止後少し時間をおき、冷めてから取りはずしてください。

4 フロッピーディスクドライブ

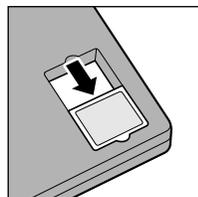
3.5 型フロッピーディスク

フロッピーディスクには、大切な情報を保護するための書き込み保護機構がついています。これにより、誤ってデータを消したりしないようにすることができます。



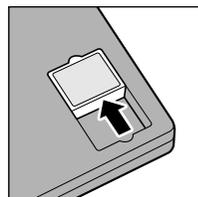
書き込み保護をセットするには

図のようにライトプロテクトタブを外側に移動させて、穴が開いた状態にします。この状態のフロッピーディスクには、データの書き込みはできません。データの読み込みはできます。



書き込み保護を解除するには

図のようにライトプロテクトタブを内側に移動させて、穴が閉じた状態にします。この状態のフロッピーディスクには、データの書き込みも読み込みもできます。



なお、いずれの場合も「カチッ」と音がするまでライトプロテクトタブを移動させてください。

フロッピーディスクのセットと取り出し

フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入することを「フロッピーディスクをセットする」といいます。

フロッピーディスクのセット

- 1 フロッピーディスクの隅に書かれている矢印の向きに合わせて挿入する
「カチッ」と音がするまで挿入します。
正しくセットされるとイジェクトボタンが出てきます。

フロッピーディスクの取り出し

- 1 フロッピーディスクドライブのイジェクトボタンを押す
フロッピーディスクが少し出てきます。そのまま手で取り出します。



お願い

- ・フロッピーディスクドライブのFDDアクセスランプ点灯中は、データの書き込み、読み取り中です。アクセスランプ点灯中に次のことを行うと、フロッピーディスク内のデータが消失することがあります。
 - ・フロッピーディスクドライブのイジェクトボタンを押す
 - ・パソコン本体の電源を切る
- ・フロッピーディスクドライブを使用しないときは、必ずフロッピーディスクを取り出しておいてください。

3 章

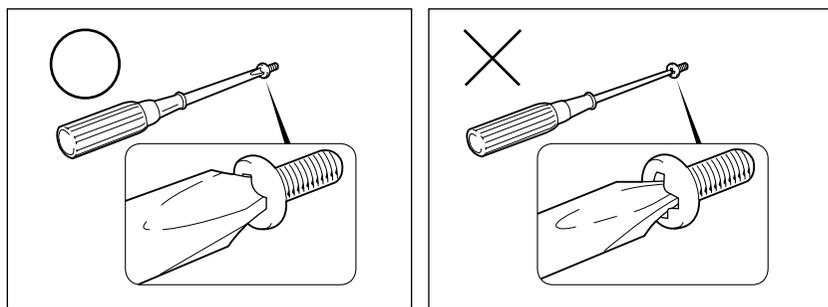
ハードウェアについて

5 機器の拡張を行うときは

システムの拡張についてはパソコンの内部について、ある程度の知識や経験のある方（以前にメモリ増設、オプションカードの取り付けなどを行われた方）を対象としております。システム拡張の経験のない方、難しいと思われる方はお買いあげの販売店、または同梱の『保守サービスのご案内』をご覧くださいのうえ、お近くのサービスステーションにご相談ください（作業をご依頼の場合は有償で行います）。

作業前の注意事項

- 湿気やホコリが少なく、直射日光の当たらない場所で作業を行なってください。
- 温度範囲は 10～35℃、湿度範囲は 20～80%Rh ですが、結露するような急激な温度変化を与えないでください。
- 必ず周辺機器に付属の説明書をお読みになったうえで、取り付けを行なってください。
- 注意事項は周辺機器によって異なります。各項目をよく読んでから作業を行なってください。
- 各手順は、必ず正しい順序で行うようにしてください。
- 取り付け作業時にプリント基板の角などで指を傷つけないように、作業用手袋の使用をおすすめします。
- 静電気の発生しやすい環境（じゅうたんの上等）で作業しないでください。静電気を帯びることにより電子部品が故障することがあります。
- 必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから取り付け、取りはずし作業を行なってください。
- 作業上必要な場所以外には、手を触れないでください。
内部には高電圧部分が多くあり、万一触ると危険です。
- 取りはずしたネジは紛失しないように注意してください。また、機器内部に落とさないでください。
- ネジは数種類あります。取りはずしたネジは必ず元のネジ穴に取り付けてください。
- 異常や故障が発生したら、『保守サービスのご案内』をご覧くださいのうえ、お近くのサービスステーションまたは、お買いあげの販売店にご相談ください。
- オプションカードには鋭い突起があります。手を傷つけないようにしてください。
- コネクタの接続、オプションカードの取り付けなどで、ドライバを使用する場合は、必ずネジにあったものをご使用ください。
ネジに合わないドライバは、十字穴にすきまができて安定しません。また、無理に使用すると、十字穴をつぶす原因になります。



- 本体へのケーブル接続は、コネクタの形状に注意して正しく差し込んでください。コネクタに無理な力が加わるとピンが折れたり曲がったりします。ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、ケーブルがはずれないようにネジをしめてください。
- 電源コードの接続は、①アース線、②プラグの順に行なってください。取りはずす場合は、①プラグ、②アース線の順に行なってください。



- 注意**
- ・この章で説明されている「6 節 本体カバーの取りはずし/取り付け」以降の作業を行う前に、システムを終了させ、パソコン本体と接続されているすべての周辺機器の電源を切り、その後パソコン本体背面に接続されているすべてのケーブル類を取りはずしてください。パソコン本体を開け、作業を行う前に、電源を切りケーブル類を取りはずしておかないと、作業者のケガや機器の損傷を招くことがあります。
 - ・本体カバーをはずして作業する場合、本体の電源コードを抜いて1分以上たってから作業してください。機器の故障の原因となります。
 - ・本体カバーをはずして作業する場合、内部には鋭利なところがありますので、十分注意してください。なお、作業に際しては手袋をしてください。



お願い

- ・本体カバーを取りはずした状態での操作はしないでください。電源を入れる前には、必ず本体カバーを取り付けてください。

作業前の準備

システムの拡張作業で、次のような道具が必要になる場合があります。あらかじめ、ご用意ください。

- ・ + (プラス) ドライバ
- ・ 作業用手袋
- ・ 取りはずしたネジなどを入れる袋

オプション取り付け時の設定

周辺機器によっては、セットアップでの設定が必要になるものがあります。

☞ 設定について

- ⇒ 「7章 BIOS セットアップについて」、『各オプションに付属の説明書』

6 本体カバーの取りはずし／取り付け

- !** 注意 ・オプション装着などのほかは、カバーを開けないでください。故障の原因となる場合があります。
・本体内の板金、メインボードなどで指を傷つけないように、作業用手袋の使用をおすすめします。

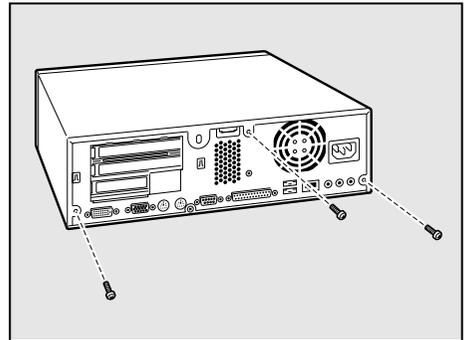
システムを拡張する場合、さまざまなオプションの取り付け位置は本体内部であるため、本体カバーを取りはずすことが必要です。
先に本体カバーの取りはずしかた、取り付けかたをまとめて説明します。
それぞれのオプションの取り付け、取りはずしについては次節より説明します。

● 本体カバーの取りはずし

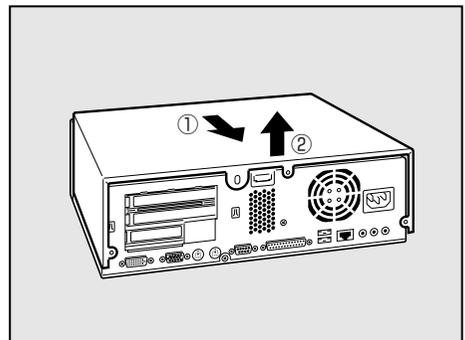
- 1 「本章 5 機器の拡張を行うときは」での事前の注意事項を確認する
- 2 パソコン本体の電源を切る
- 3 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る
- 4 電源コンセントから電源コードのプラグを引き抜き、アース線を取りはずし、本体背面に接続されているすべてのケーブルを取りはずす

- !** 注意 ・電源を切っただけでは、メインボードは通電状態となっています。通電状態でコネクタの抜き差しを行うと、故障の原因となります。
必ず電源コードを抜いてから作業を行ってください。

- 5 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器を取りはずす
- 6 本体背面のネジ3本をはずす

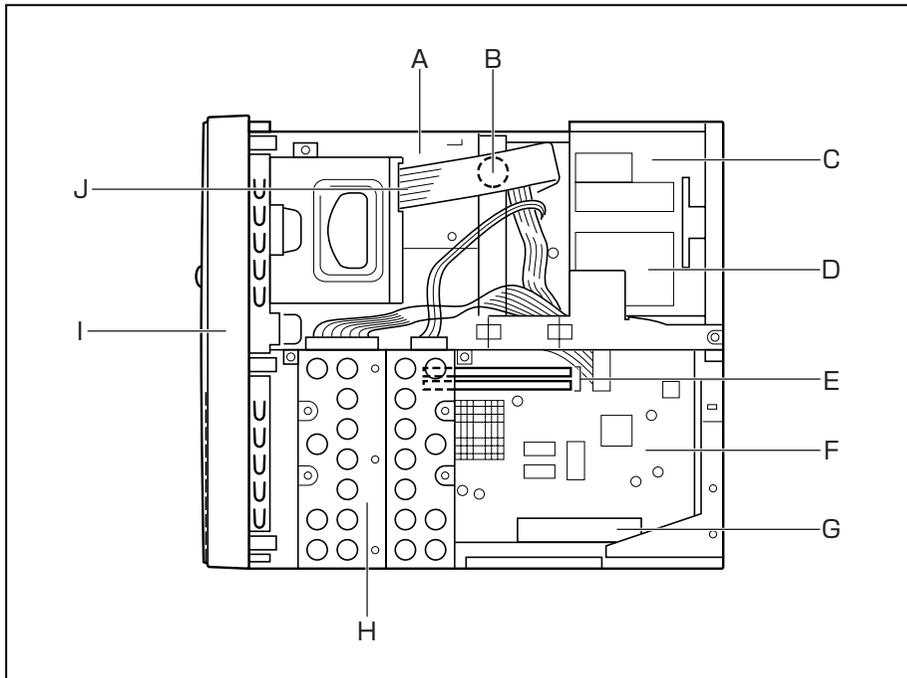


- 7 本体カバーを後方へずらし①、まっすぐ上に持ち上げて取りはずす②



- !** 注意 ・カバーの取り扱いに注意してください。
落としたり、ぶついたりして手や足をケガするおそれがあります。

● 本体カバーを取りはずしたところ



B, E, G, H, I, Jはユーザ作業エリアです。

A. ファイルスロット

CD-ROM ドライブまたは CD-R/RW ドライブが標準で内蔵

B. バッテリ

C. 電源ユニット

D. 電源警告ラベル

(電源ユニットのカバーは、はずさないでください。内部には高電圧部分があり、感電・火災・故障のおそれがあります。)

E. メモリスロット

F. メインボード

G. 拡張スロット

H. ハードディスクドライブ

I. フロントベゼル

J. FDD コネクタ

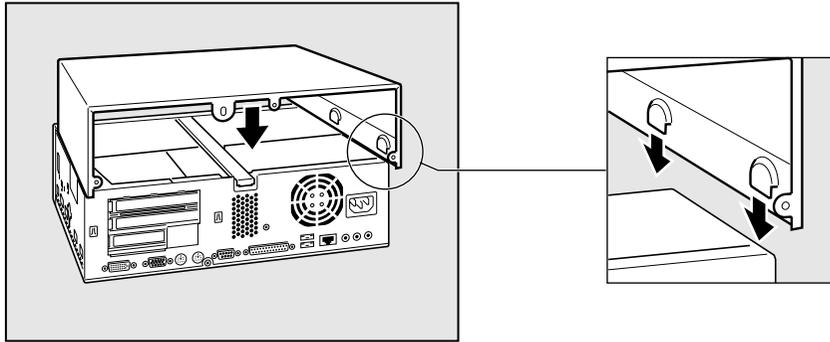


注意 ・ユーザ作業エリア以外は分解しないでください。

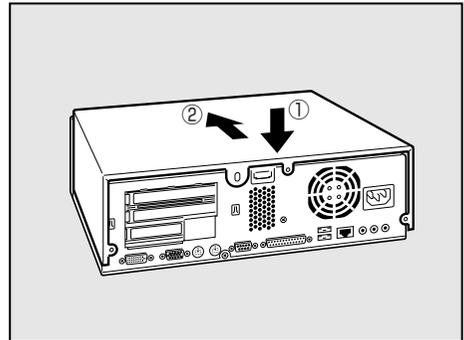
高電圧部による感電のおそれがありますので、絶対に触れないでください。

● 本体カバーの取り付け

- 1 「本章 5 機器の拡張を行うときは」での事前の注意事項を確認する
- 2 工具類や部品類を本体内部に残していないこと、部品類の取り付けが正しく、しっかり行われていることを確認する
- 3 本体カバーを、本体前面から2cm程度離れた位置に、カバー両側のツメと本体を合わせてのせる
合わせにくいときは、カバーの両側を開くようにしてください。

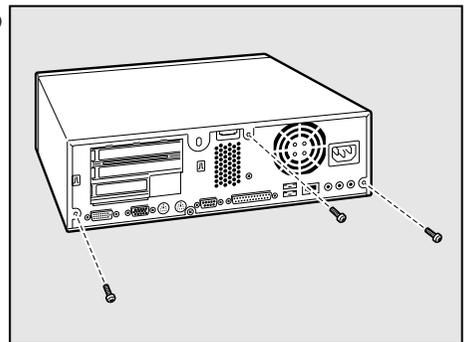


- 4 本体カバーの前側上面をおさえながら
①、前方にスライドさせる②



! 注意 ・ケーブル類をはさみ込まないようにしてください。

- 5 本体背面にネジ3本を取り付け、固定する



7 オプションカード

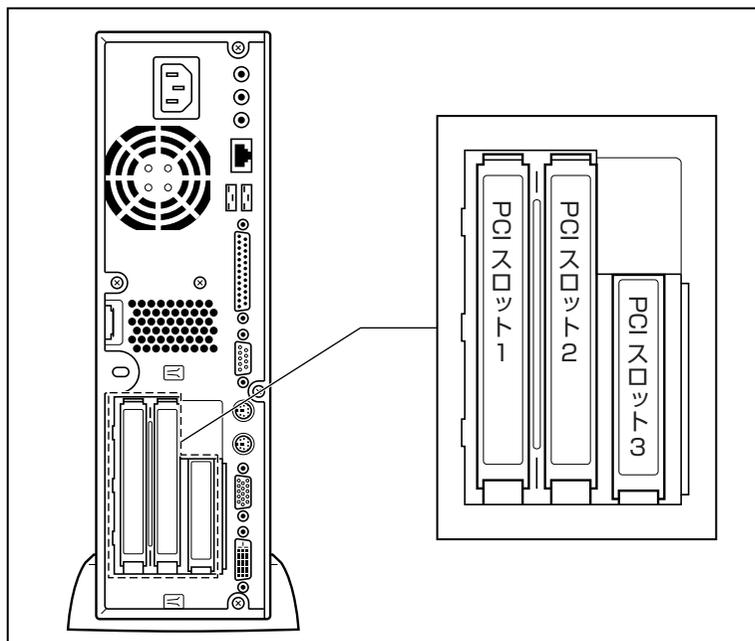


お願い

・PC97 規格に対応していないカードは正常に動作しない場合があります。

● 拡張スロットの位置

本体にはオプションカード用の拡張スロットが合計 3 個用意されています。



注意 ・オプションカードの取り付けに際しては、拡張スロットの電流容量を超えないように注意してください。

🔊 電流容量について

⇒ 「付録 2-PCI スロットの電流容量」、『各オプションカードに付属の説明書』



お願い

・オプションカードは、特に静電気に対して敏感で、その取り扱いには注意が必要です。カードを持つときは、カードの縁を持つようにして、部品や金メッキ部分には触らないようにしてください。保護袋や本体からカードを抜き出したときには、水平で、接地された、静電気の無いところに、部品面を上にして置くようにしてください。カードは、どんな面の上でも、滑らせて移動させないでください。

● オプションカードの外形図

各スロット用のカードの種類と本体に装着可能なカードの外形図を示します。



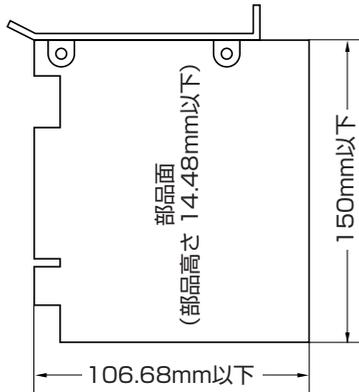
注意 ・接触による事故防止のため高さ制限を守ったカードを使用してください。



お願い

・本体内に装着できる PCI タイプカードは、次に示すサイズ以下のものです。このサイズを超える大きさのカードは取り付けしないでください。故障や不具合が発生する場合があります。

● スロット 1、2 に装着可能なカード



● スロット 3 に装着可能なカード

スロット 3 には、次に示すサイズの Low Profile PCI 規格カードのみ装着できます。



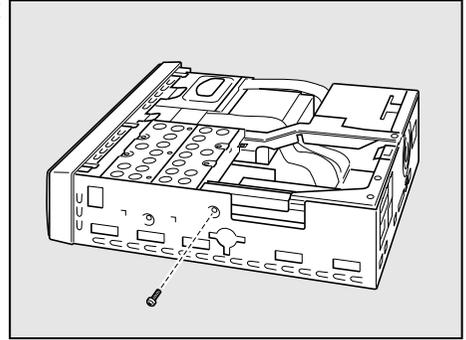
● オプションカードの取り付け



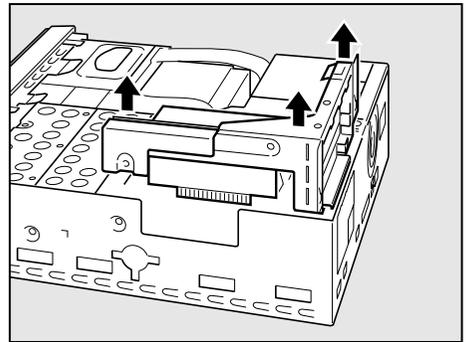
お願い

・この作業を行うとき、メインボードや他のボードの部品を損傷しないように注意してください。

- 1 「本章 5 機器の拡張を行うときは」での事前の注意事項を確認する
- 2 パソコン本体の電源を切る
- 3 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る
- 4 電源コンセントから電源コードのプラグを引き抜き、アース線を取りはずす
- 5 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器を取りはずす
- 6 本体カバーを取りはずす
☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし／取り付け」
- 7 ライザーカードを固定しているネジ 1 本をはずす

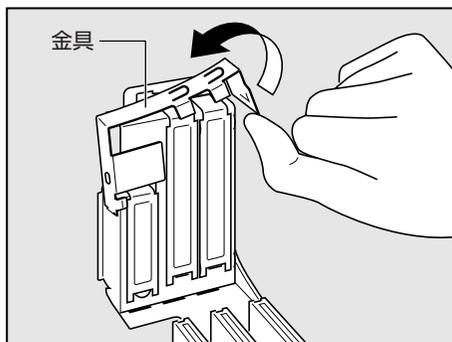


- 8 図のようにライザーカードを真上に引き上げて取りはずす



注意 ・ライザーカードの下の I/O コネクタの板金には鋭利な部分があり、けがをするおそれがありますので、触れないようにしてください。

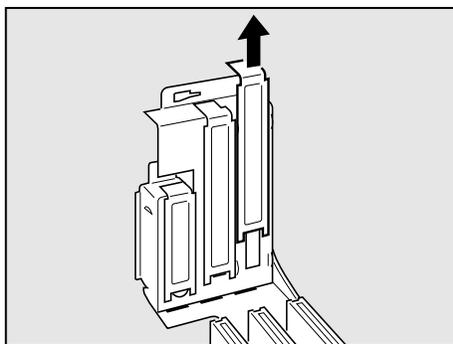
9 オプションカードパネルをとめる金具を
図のように引き上げて取りはずす



! 注意 ・金具を取りはずすときは、指を傷つけないように作業用手袋の使用をおすすめします。

10 オプションカードパネルを図のようにス
ライドさせて、取りはずす

取りはずしたオプションカードパネルは、大切に
保管しておいてください。



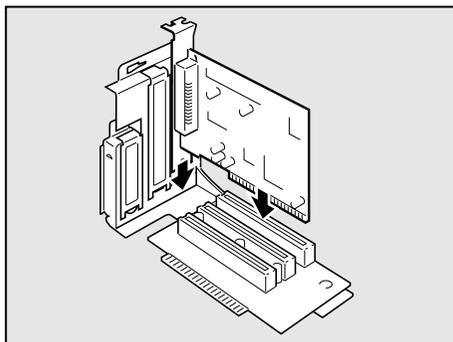
11 保護袋から取り付けるオプションカードを抜き出し、水平で、接地された、
静電気の無いところに、部品面を上にして置く

保護袋は再度取りはずしたときのために保管しておいてください。

12 オプションカードに付属の説明書に従って、カードのジャンパやスイッチの
設定をする

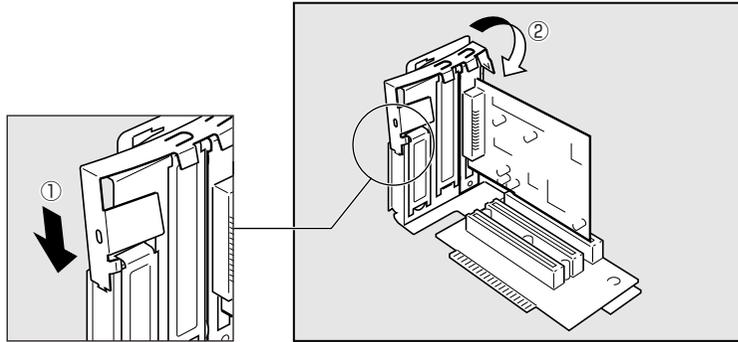
13 カードの上の縁、または上の角のところに
持って、図のようにカードをセットする

オプションカードのエッジ（金メッキ部分）を拡
張スロットコネクタにしっかり合わせて押し入れ
ます。



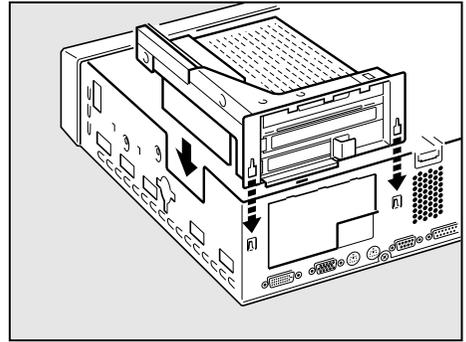
! 注意 ・オプションカードには鋭い突起があります。取り付け作業時には、指を傷つけないよ
うに作業用手袋の使用をおすすめします。

- 14** オプションカードパネルをとめる金具を、左側のツメを合わせてから①、右側のツメを図のように合わせて取り付け②



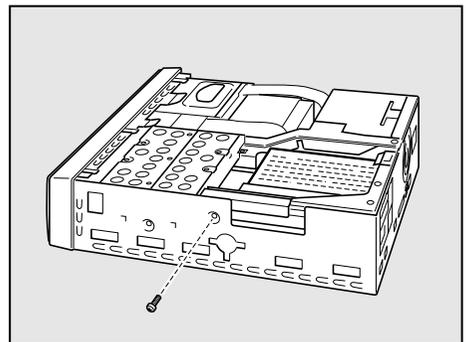
注意 ・金具を取り付けるときは、指を傷つけないように作業用手袋の使用をおすすめします。

- 15** ライザーカードを、本体背面2個所のツメと、ライザーカードスロットの位置に合わせ、本体に取り付ける



注意 ・ライザーカードの下のI/Oコネクタの板金には鋭利な部分があり、けがをするおそれがありますので、触れないようにしてください。

- 16** 手順7で取りはずしたネジ1本を取り付ける



- 17** 必要があれば取り付けしたオプションカードにケーブル類を接続する

- 18** 本体カバーを取り付ける

☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし／取り付け」

● オプションカードの取りはずし

オプションカードの取りはずし方法について説明します。取り付け時の図を参照しながら作業を進めてください。

☞ 「本節 オプションカードの取り付け」

- 1 「本章 5 機器の拡張を行うときは」での事前の注意事項を確認する
- 2 パソコン本体の電源を切る
- 3 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る
- 4 電源コンセントから電源コードのプラグを引き抜き、アース線を取りはずす
- 5 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器を取りはずす
- 6 本体カバーを取りはずす
☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし／取り付け」
- 7 オプションカードに接続されているケーブルがあれば、はずす
再度取り付けるときのために、取りはずしたケーブルは大切に保管しておいてください。
- 8 ライザーカードを固定しているネジ 1 本をはずす
- 9 ライザーカードを真上に引き上げて取りはずす
- 10 オプションカードパネルをとめる金具を取りはずす



注意 ・金具を取りはずすときは、指を傷つけないように作業用手袋の使用をおすすめします。

- 11 オプションカードの縁を持って、カードがライザーカードからはずれるまで引き抜く



注意 ・オプションカードには鋭い突起があります。オプションカードを引き抜くときは指を傷つけないように作業用手袋の使用をおすすめします。

- 12 オプションカードを、静電気対策された保護袋に入れて保管する
- 13 取りはずしたときに保管してあったオプションカードパネルを取り付けて、オプションカードパネルをとめる金具を取り付ける



注意 ・空いたスロットには必ずオプションカードパネルをつけるようにしてください。電磁ノイズと機器の冷却に問題が起きることがあります。
・金具を取り付けるときは、指を傷つけないように作業用手袋の使用をおすすめします。

- 14 ライザーカードを、本体背面 2 個所のツメと、ライザーカードスロットの位置に合わせ、本体に取り付ける
- 15 手順 8 で取りはずしたネジ 1 本を取り付ける
- 16 本体カバーを取り付ける

☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし／取り付け」

8 増設メモリ



お願い

- ・必ずメモリに付属の説明書をお読みになったうえで作業を行なってください。
- ・使用できる増設メモリは1枚です。
- ・増設メモリの取り付けが難しいと思われる方は、保守サービスでの取り付けをおすすめします。同梱の『保守サービスのご案内』をご覧くださいのうえ、お近くのサービスステーションに作業をご依頼ください（有償です）。

本装置には次のメモリが取り付けられます。

64MB DIMMメモリ	ECCなし*/PC100規格
128MB DIMMメモリ	
256MB DIMMメモリ	

* ECC付きメモリも使用できますが、ECC機能はサポートされません。

メインボード上の2つのメモリソケットに最大合計512MB（256MB×2）のメモリを取り付けることができます（標準メモリとしてメモリが1枚～2枚取り付けられています）。

標準メモリのメモリを取りはずし、256MBのメモリを2枚実装することにより、最大512MBのメモリ容量にすることができます。

メモリ増設ソケットは、DIMM1がバンク0用、DIMM2がバンク1用です。

メモリ1枚	増設メモリ1枚		
	64MB	128MB	256MB
64MB	128MB	192MB	320MB
128MB	192MB	256MB	384MB
256MB	320MB	384MB	512MB



注意

- ・メモリ増設の際は、本製品に合ったメモリを使用してください。異種のメモリを使用すると正常に動作しない場合があります。
- ・メモリを増設されるときは、必ず本製品のオプションをお買い求めください。その他の製品を使用することはできません。もし使用した場合は、本体が正常に動作しない、または故障の原因になります。

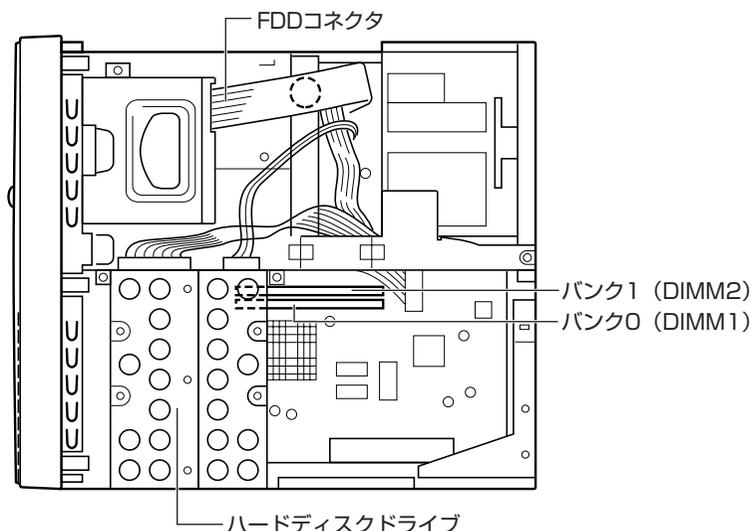


メモ

- ・システムバスクロック（FSB）とメモリの動作クロックは次のとおりです。

システムバスクロック	100MHz
メモリ動作クロック	100MHz（PC100対応）

- ・ECC機能はサポートしていません。



● 増設メモリの取り付け

増設メモリの取り付け方法について説明します。

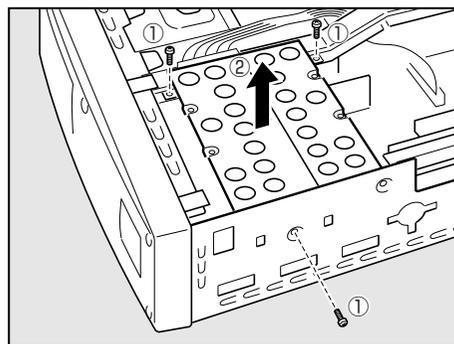


注意 ・増設メモリは、静電気に大変弱い部品で構成されています。身体に静電気を帯びた状態で増設メモリを扱うと、増設メモリが破壊する原因となります。増設メモリの取り付け／取りはずしを行う場合は、端子やICなどに触れないよう、縁を持ってください。

- 1 「本章 5 機器の拡張を行うときは」での事前の注意事項を確認する
- 2 パソコン本体の電源を切る
- 3 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る
- 4 電源コンセントから電源コードのプラグを引き抜き、アース線を取りはずす
- 5 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器を取りはずす
- 6 本体カバーを取りはずす
☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし／取り付け」

- 7 ハードディスクドライブを固定しているネジ3本をはずし①、ハードディスクドライブを取りはずす②

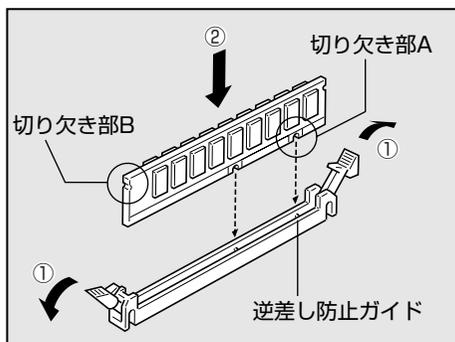
取りはずしたハードディスクドライブは、ケーブルに無理な力が入らないように裏返す形でフロッピーディスクドライブの上に置いてください。



お願い

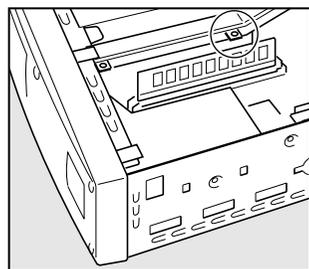
・ハードディスクドライブを取りはずすときは、しっかりと手に持って、ゆっくりと行なってください。ぶつけたり、落としたりして強い衝撃を与えると、ハードディスクドライブが故障するおそれがあります。

- 8 左右のフックを矢印の方向に倒し①、増設メモリの切り欠き部Aを、メモリ増設ソケットの逆差し防止ガイドに合わせる②



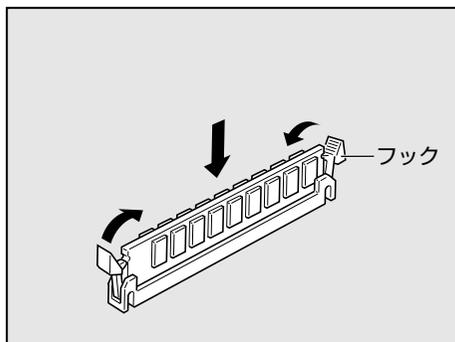
注意

- ・増設メモリの挿入方向をまちがえないでください。まちがえて取り付けると増設メモリやメモリ増設ソケットを破損する原因になります。
- ・増設メモリを挿入するときに、ハードディスクドライブを固定しているネジ穴の突起部に触れないようにしてください。



- 9 メモリ増設ソケットの左右のフックが切り欠き部Bに掛かるように、増設メモリを真上から押し込む

増設メモリが左右のフックで固定されます。左右のフックが垂直に立ち、増設メモリを固定していることを確認してください。



注意

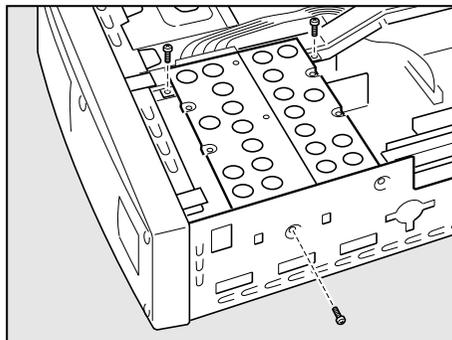
- ・増設メモリが完全に挿入されていない状態で使用すると、異常動作したり、増設メモリやメモリ増設ソケットを破損する原因になります。
- ・内部のケーブルをメモリとソケットではさみ込まないようにしてください。



お願い

- ・メモリの接点（金メッキ部）がきちんとソケットに入っていることを確認してください。正常に取り付けられていないと、システムが正常に起動できなかったり、故障の原因となります。

10 ハードディスクドライブをネジ3本で取り付ける



お願い

・ハードディスクドライブを取りはずすときは、しっかりと手に持って、ゆっくりと行なってください。ぶつけたり、落としたりして強い衝撃を与えると、ハードディスクドライブが故障するおそれがあります。

11 本体カバーを取り付ける

☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし／取り付け」

以上で増設メモリの取り付けは完了です。

増設したメモリが認識されているか、次の「メモリ容量の確認」で確認してください。

● メモリ容量の確認

「PC診断ツール」を使用します。

- 1 [スタート] - [プログラム] - [東芝ユーティリティ] - [PC診断ツール] をクリックする
- 2 [基本情報の表示] ボタンをクリックする
- 3 [メモリ] の数値を確認する

次のような場合、増設メモリが正しく取り付けられていないか、故障している可能性があります。もう1度正しく増設メモリの取り付けを行なってください。

- ・電源が入らない
- ・システムが起動しない
- ・数値が合っていない

● 増設メモリの取りはずし

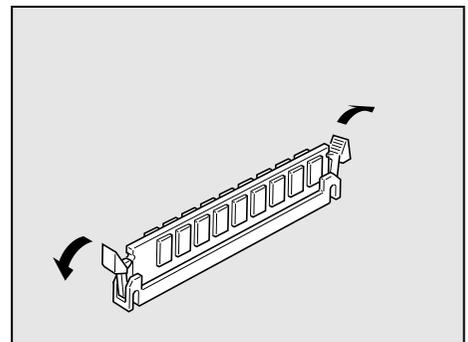
増設メモリの取りはずし方法について説明します。取り付け時の図を参照しながら作業を進めてください。

☞ 「本節 増設メモリの取り付け」

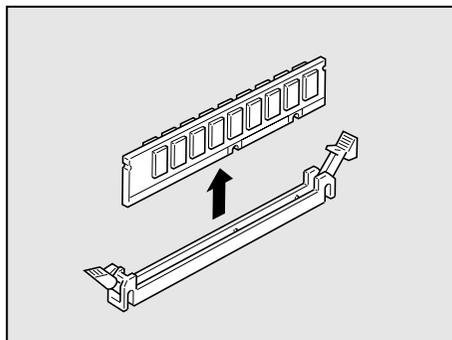


注意 ・増設メモリは、静電気に大変弱い部品で構成されています。身体に静電気を帯びた状態で増設メモリを扱っていると、増設メモリが破壊する原因となります。増設メモリの取り付け／取りはずしを行う場合は、端子やICなどに触れないよう、縁を持ってください。

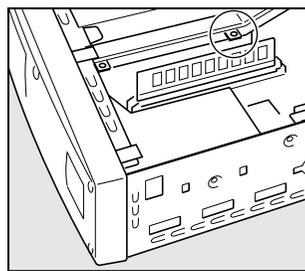
- 1 「本章 5 機器の拡張を行うときは」での事前の注意事項を確認する
- 2 パソコン本体の電源を切る
- 3 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る
- 4 電源コンセントから電源コードのプラグを引き抜き、アース線を取りはずす
- 5 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器を取りはずす
- 6 本体カバーを取りはずす
☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし／取り付け」
- 7 ハードディスクドライブを固定しているネジ3本をはずし、ハードディスクドライブを取りはずす
- 8 ソケットのフックを両側に開く
増設メモリが少し出てきます。



9 増設メモリを真上に引き抜く



注意 ・増設メモリを取りはずすときに、ハードディスクドライブを固定しているネジ穴の突起部に触れないようにしてください。



10 ハードディスクドライブをネジ3本で取り付ける

11 本体カバーを取り付ける

☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし／取り付け」

メモリを取りはずしたら、正しく容量が認識されているか本体を起動して確認してください。

☞ メモリ容量を確認する ☞ 「本節 メモリ容量の確認」